

令和 2 年度市民活動支援センター  
市民活動に関するアンケート調査結果報告書  
【団体編】

調布市市民プラザあくる市民活動支援センター

## I はじめに

市民活動支援センターは、平成17年2月に開設以来「自立した市民社会の創造」をミッションに市民が自ら主体的に社会参加し、市民活動を行う「市民が主役のまちづくり」を目指し、多様な市民活動を支援する拠点として、様々な取組を行ってきた。

平成30年に策定した「市民活動支援センター中長期運営方針（ビジョン）」では、1. 人材を発掘し、育成する 2. 行き交う情報の有効活用 3. 市民活動助成事業「えんがわファンド」を活用した市民活動支援の充実 4. パートナーシップの強化 5. 災害時の支援の5つの柱を掲げ、これらを推進していくことが、課題解決に向かって市民自らが関わりまちを創造していくために重要であると考え、多様な活動に取り組んでいる。

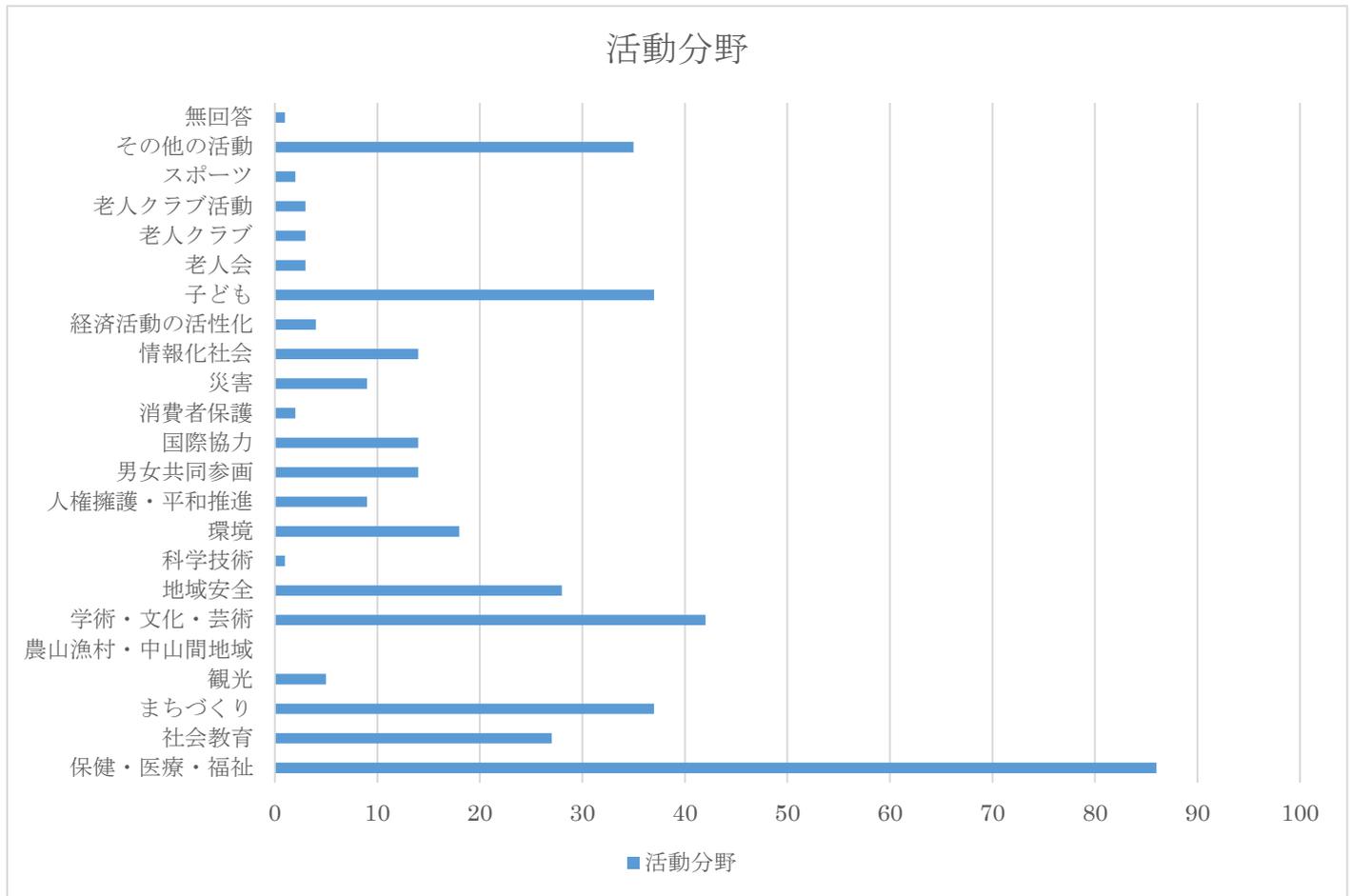
市民活動支援センターが、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくうえで、市民活動団体の活動状況や経年変化、センターへの期待等を把握し、センターの取組に生かしていくことを目的に、令和2年2月に「市民活動に関するアンケート調査【団体編】」を実施した。

## II 調査の概要

期間	令和3年2月19日～3月19日
対象	① 市民活動支援センターホームページに情報登録している市民活動団体 ② 市内に事務所を有するNPO法人、一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人 ③ その他、市内で公益的かつ非営利の活動を行う市民活動団体 上記①～③のうち、本調査事業の趣旨に賛同し調査協力する団体
手法	郵送若しくは窓口配布、当センターホームページフォームによるアンケート調査
有効回答数	226（任意団体137、NPO法人41、一般社団法人4、公益社団法人1、公益財団法人3、ひだまりサロン5、その他35）
内容（項目）	活動分野、活動満足度、組織形態、経過年数、会員数、平均年齢、事務局有無、ボランティアニーズ、活動予算、活動頻度、活動地域、活動資金、広報、協働経験、将来イメージ、市民活動支援センター利用状況、市民活動支援センターに求める機能、市民活動支援センター広報への意見、ランチ認知度、コーディネーターへの期待他

### Ⅲ 回答結果

問1 活動分野についておたずねします。(特定非営利活動促進法の区分を参考に記載しています。貴団体の活動分野として近いものをお選びください。)[複数回答可]

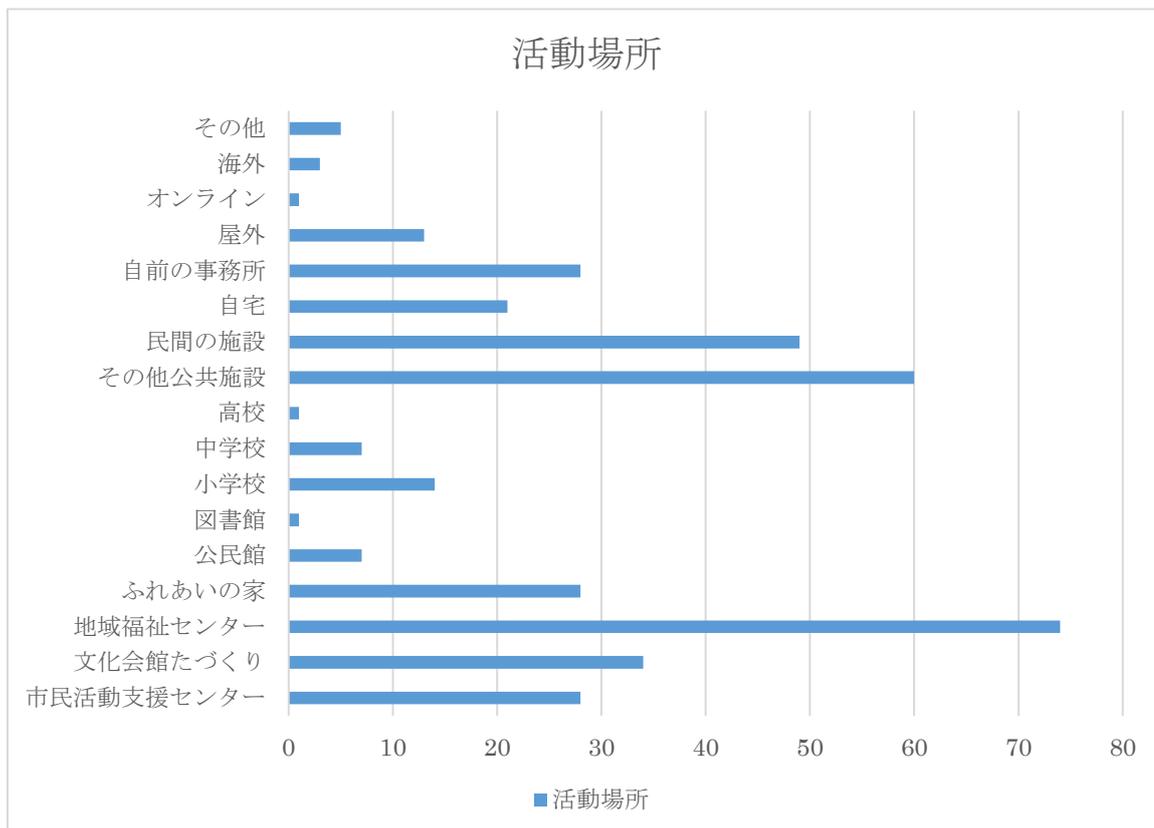


問1-2 貴団体の活動目的について教えてください。[自由記述]

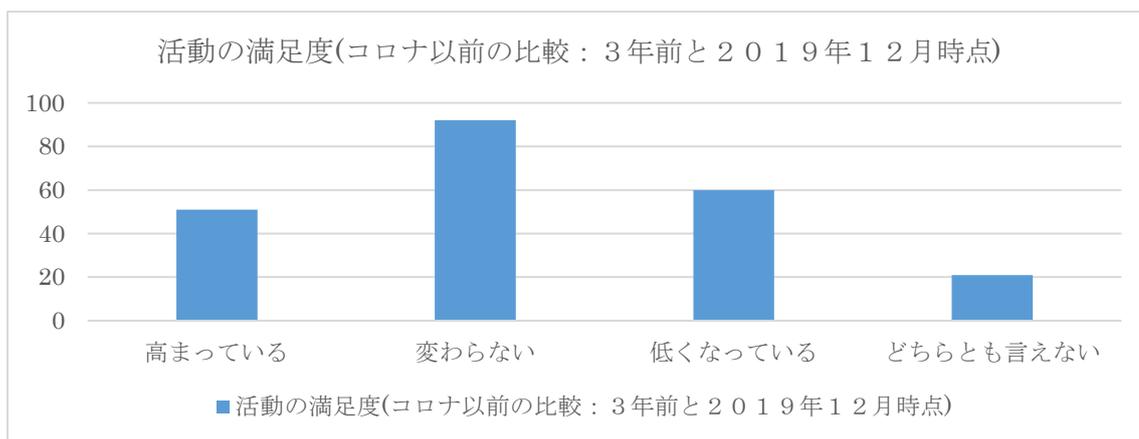
- ・高齢者の心と体の健康促進、生きがい作り ・障害のある児童の放課後活動 ・高齢者の交流、健康維持
- ・体を動かし、健康促進、いろいろな人との交流をもつ ・介護予防のためのおしゃべり交流会
- ・障害児の QOL 向上 ・障害年金の相談、案内 ・地域の人達の輪づくり ・人とのつながりづくり、家にとじこもらず体を動かす ・精神障がい家族会、当事者の方々の居場所づくり ・施設訪問してフラダンスを披露するボランティア活動 ・数学の学習支援 ・使用済み切手を回収、整理 ・月1回の歌声開催 ・障がい者が家に閉じこもることなく、いきいきと生活できるようにする ・友達や顔なじみの仲間が沢山居る、支え合い、助け合える、安心して暮らせる、そんなコミュニティの熟成 ・皆でリハビリをすれば楽しくなるがモットーの高次脳機能障がい者に特化した事業所
- ・高齢者施設へ清拭の寄付 ・心のケア ・地域住民の孤立を防ぎ、誰にとっても暮らしやすいづくり ・気軽に集まり、おしゃべり、歌、体操、イベントを楽しみ、きずなを深め共助につなげる ・障害を持つ子供たちの余暇活動
- ・ゲーム開発技術の共有と人材教育を介した社会貢献 ・樹木の樹勢回復 ・安全情報の提供・国際協力
- ・地域社会の諸問題を話し合う ・野菜作りをしながら、交流を楽しむ ・介護者のサポート ・糖尿病の予防啓発
- ・趣味を活かしたレクリエーションの企画と実施 ・交通安全・生活安全からまちづくりを考える
- ・高齢者が交流して歌を歌ったり、おしゃべりしたりすることによって元気になること ・就労支援
- ・生と死、葬儀について学び備える賢い消費者づくり ・参加者の教養啓発 ・輪投げ、おしゃべり等
- ・心身に障害を持つ人が、地域で豊かに共生できる場づくり
- ・タンザニア連合共和国において地域住民と協力しながら平和で安心して暮らすことのできる社会を築くこと

- ・趣味の会、茶会などを通して近隣の人たちとのコミュニティを創る ・地域交流、子育てママのストレス発散
- ・目の見えにくい方、耳の聞こえにくい方、高齢者と共に映画を楽しむ会 ・地域コミュニティや学校等での「心をつなぐ」コンサートやワークショップを通じて、音楽で社会に貢献する ・健康維持と増進のためのグラウンドゴルフ
- ・グローバル化時代における国際理解教育の推進 ・弦楽器合奏 ・平和活動、子育て支援、介護予防など手打ちそばを通じて、会員の親睦交流を図り加えて地域住民への食事を提供し交流を広げる活動
- ・ピアノの伴奏で歌を歌って交流を行う ・国籍、年齢、経験を問わず、誰でも参加できる演劇研究会
- ・医療職、市民、行政等が連携してタバコ対策の推進を行い、もって公衆衛生の向上に寄与する ・囲碁のスキル向上と会員の交流、ボランティア(対局・指導) ・英語運用能力を高め、グローバル市民を育成する
- ・市内の情報を映像・写真を用いて発信する ・10の筋力トレーニングを通じた交流 ・リサイクルによるボランティア
- ・精神障害者福祉の推進を図ることを目的とし、家族相互の交流、関係機関等との交流、精神保健の啓蒙等の活動
- ・寄付されたタオルで雑巾を縫い、保育園等に届ける ・高齢者の居場所、安否確認、手作りランチの活動
- ・老人クラブ活動 ・オペラに出演して楽しさを感じてもらうこと ・歌を楽しみながらの交流 ・認知症の方を地域で見守り、安心して住み続けられる町にするための活動 ・骨髄異形成症候群の患者さんに情報提供、相談
- ・高齢者、一人暮らしの方、二週間に一度集って、四方山話、語ろう会を実施 ・老化を防ぐ正しい発声法やコーラスを通じ、交流を深める ・22世紀に向けて都森の丘に100年かけて1haの森を作る活動 ・自主的な活動により社会環境の浄化と青少年の健全育成を図ること ・アート、音楽、メイクを通して障がいあるなしに関係なくおもしろいと思える場の提供、だれもがふらっと立ち寄れる公園のような居場所づくり 高齢者施設を訪問し、演奏等を行なう
- ・多摩川の自然に子ども達がかかわる活動を支援 ・高齢者、視覚不自由な方のための音訳、お話し会など
- ・不特定多数の市民、学生児童に対して、伝統を正しく踏まえ、書の普及発展に関する事業を行ない、文化芸術の振興や子どもの健全育成に寄与する ・和太鼓の伝承 ・ノルディックウォーキングに関する事業を行い、会員相互ならびに参加者の健康増進と親睦をはかる ・ジンバブウェの中部にある村の農家グループとの交流 ・映画のまち調布の周知活動や上映会などのイベント開催

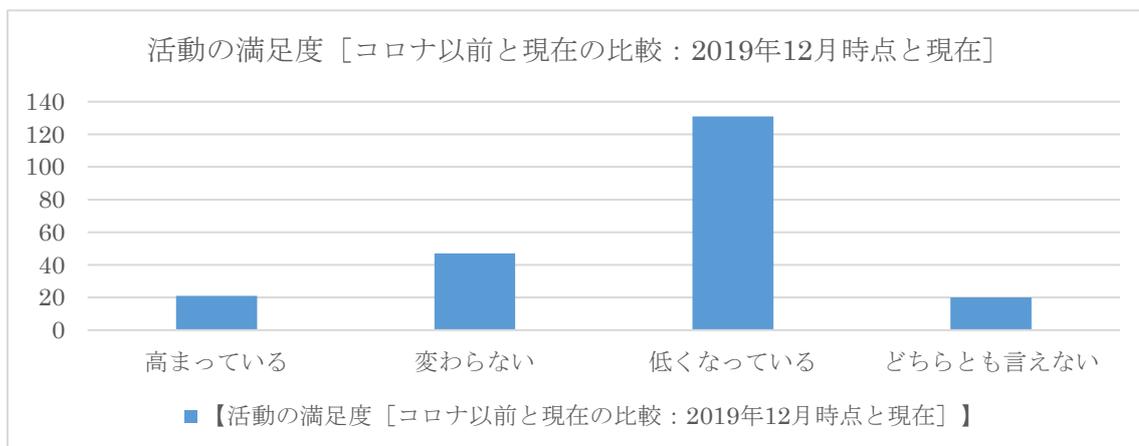
問 1-3 貴団体の主な活動場所についておたずねします。



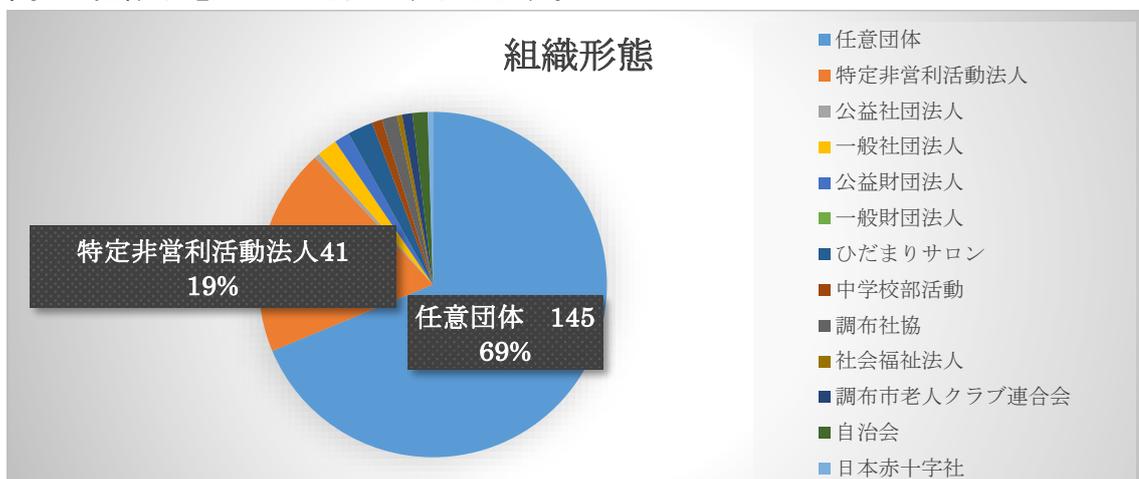
問 1-4 【活動の満足度[コロナ以前の比較:3年前と2019年12月時点]】



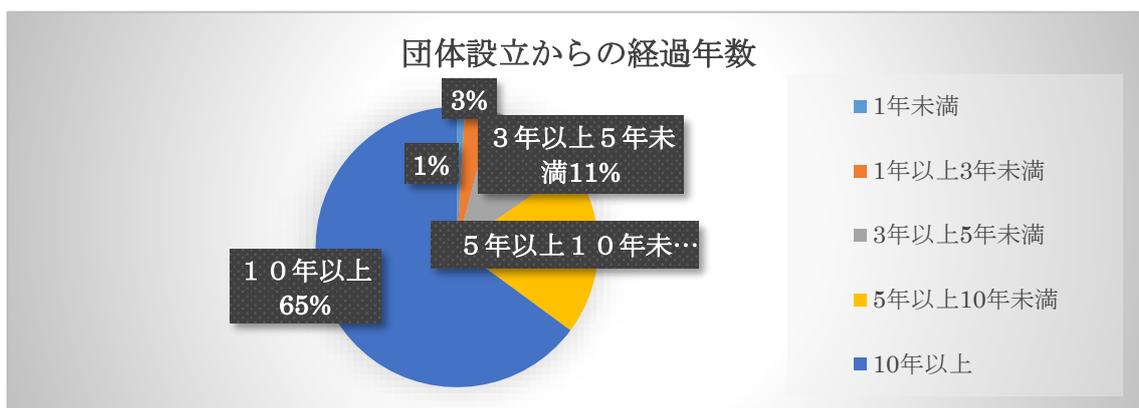
問 1-5 【活動の満足度[コロナ以前と現在の比較:2019年12月時点と現在]】



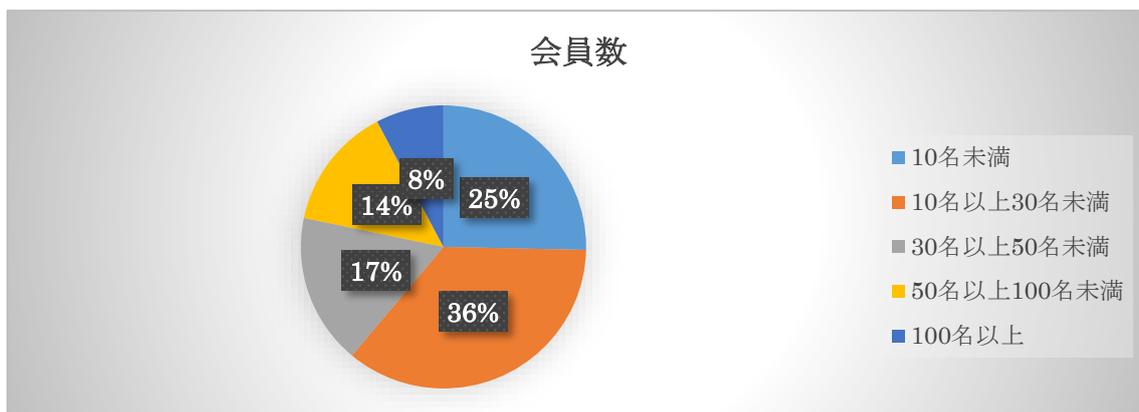
問 2 組織形態についておたずねします。



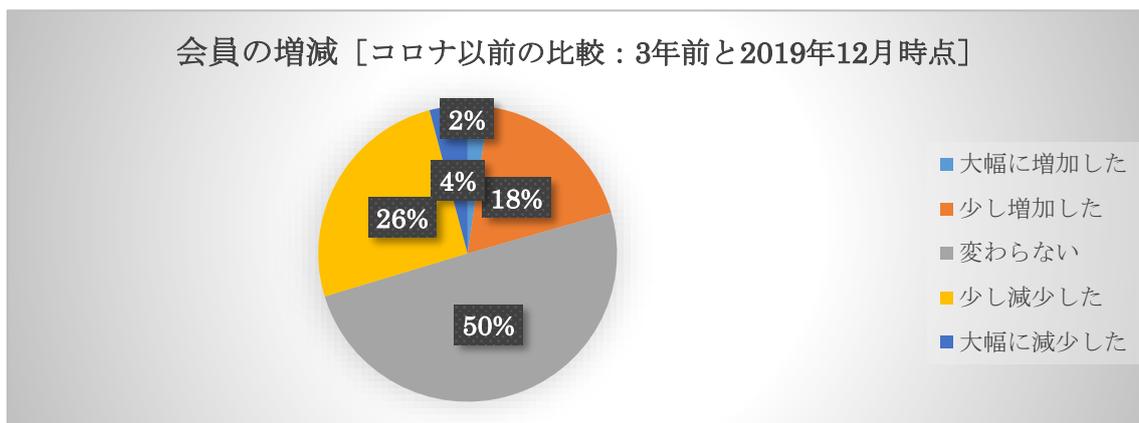
問 3 団体設立(活動開始時)からの経過年数についておたずねします。



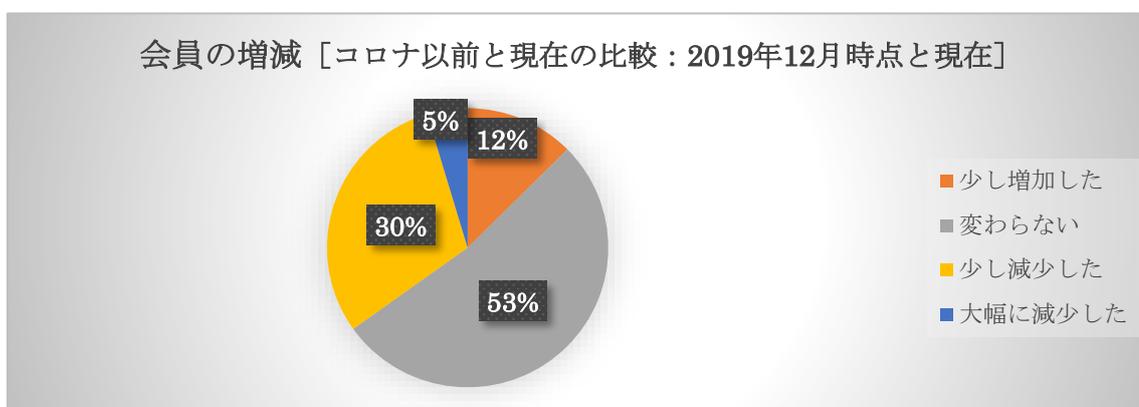
問 4 会員数についておたずねします。



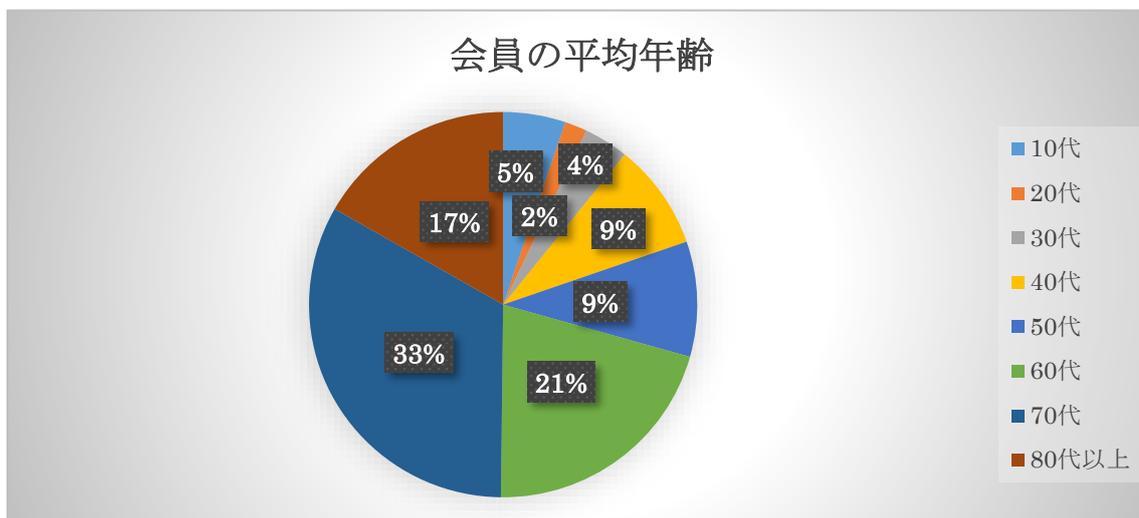
問 4-2【会員の増減[コロナ以前の比較:3年前と2019年12月時点】】



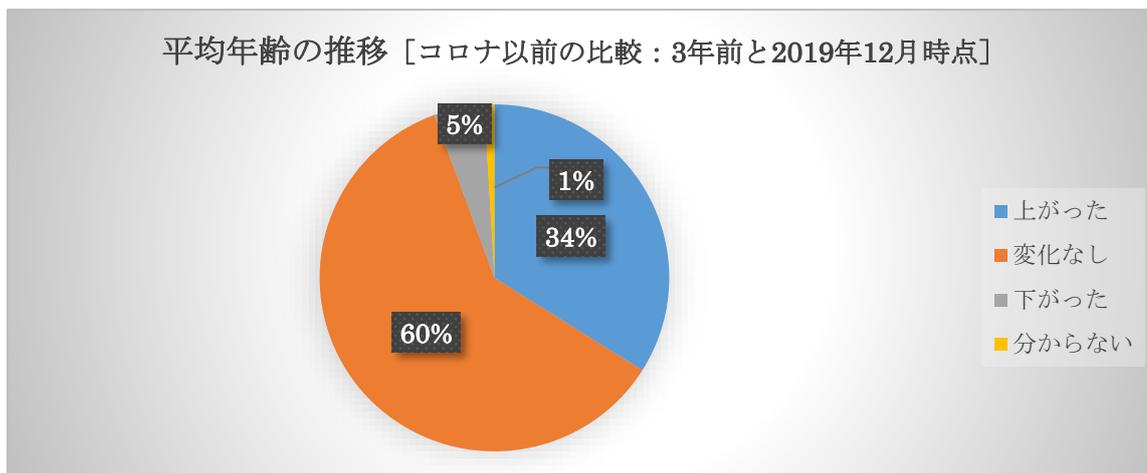
問 4-3【会員の増減[コロナ以前と現在の比較:2019年12月時点と現在】】



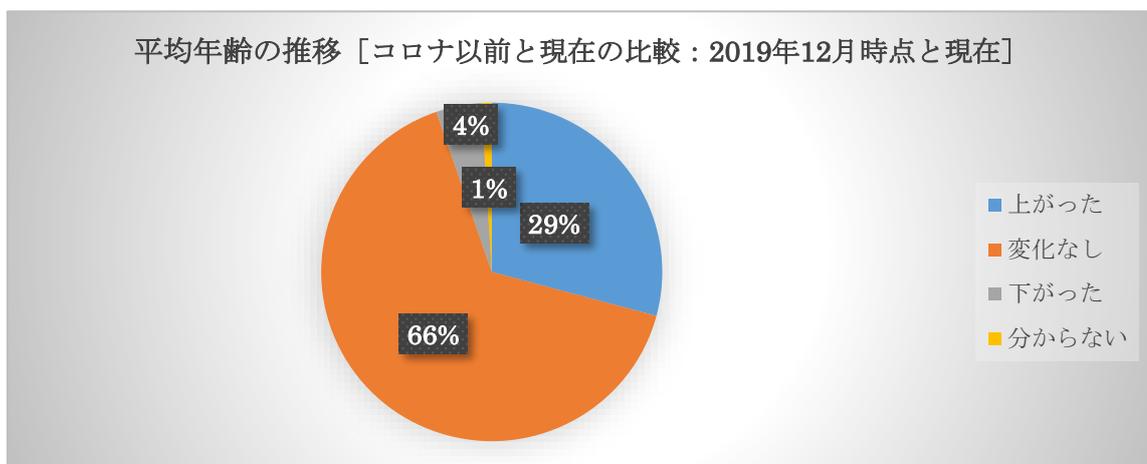
問 5 会員の平均年齢についておたずねします。



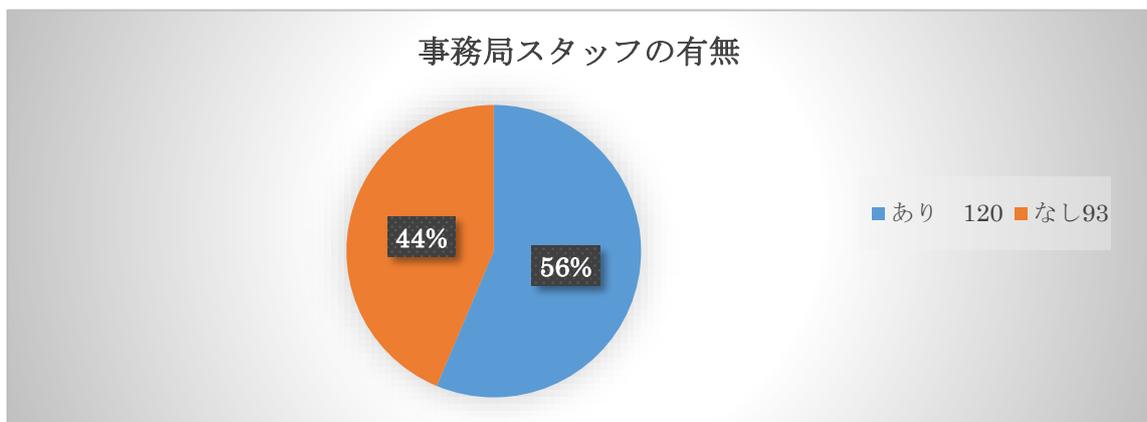
問 5-2【平均年齢の推移[コロナ以前の比較:3年前と2019年12月時点]】



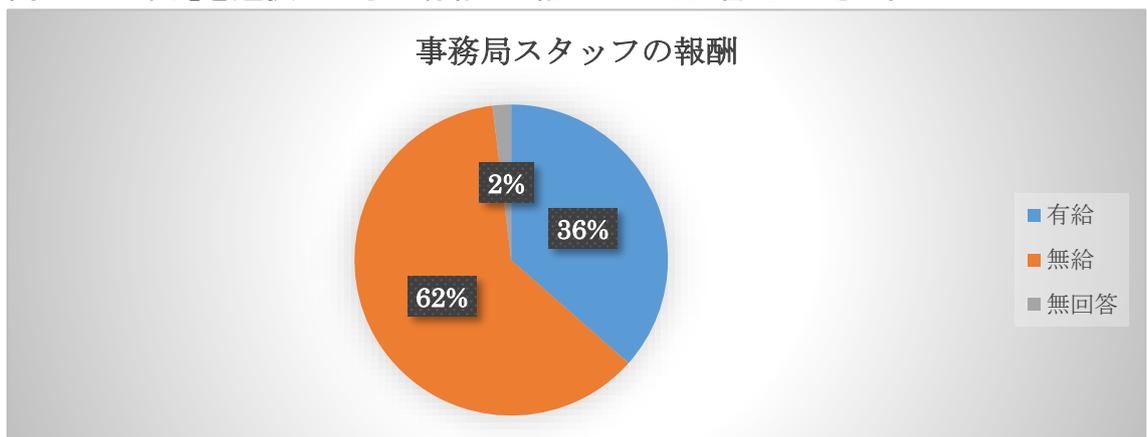
問 5-3【平均年齢の推移[コロナ以前と現在の比較:2019年12月時点と現在]】



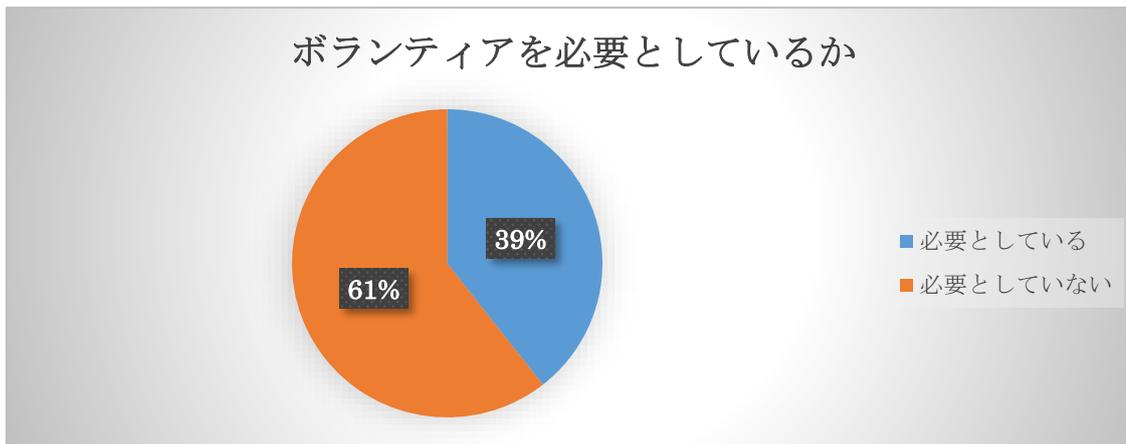
問 6 事務局スタッフの有無についておたずねします。



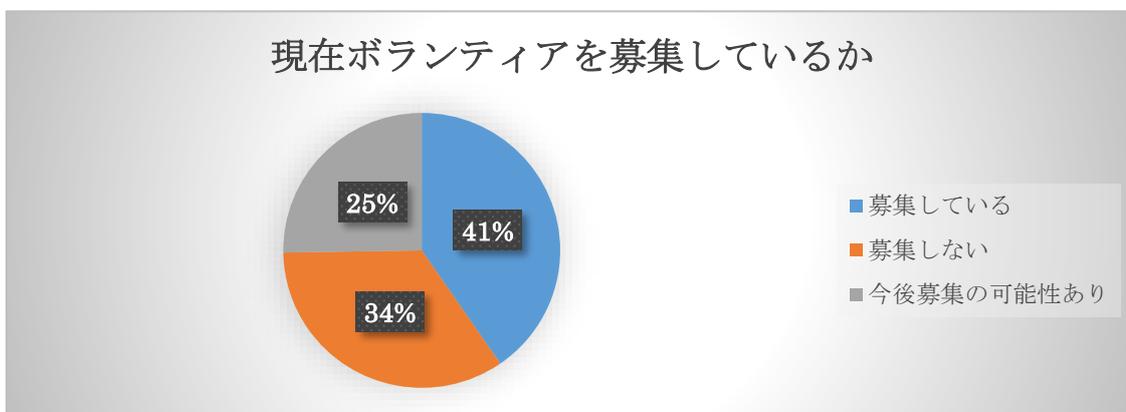
問 6-2 「あり」を選択した方は有給・無給についてお答えください。



問 7 貴団体ではボランティアを必要としていますか。



問 7-2 【ボランティア募集状況】問 7 で「必要としている」と回答した団体におたずねします。貴団体では現在、ボランティアを募集していますか。



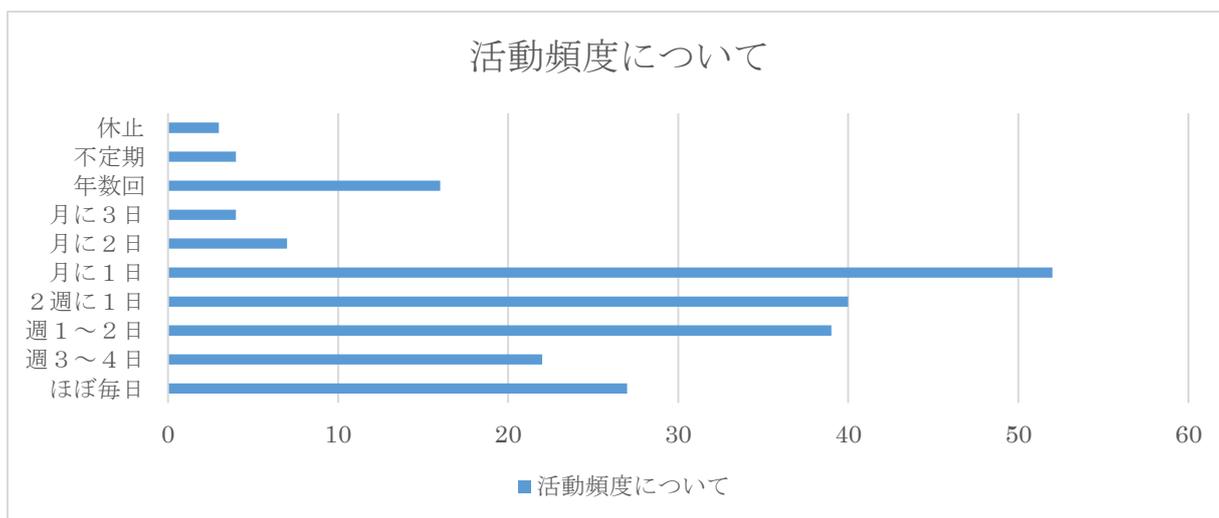
問 7-3 【ボランティア活動内容】問 7-2 で「募集している」と回答した団体におたずねします。どのようなボランティアを募集していますか

- ・利用者と一緒に活動してくれるボランティア ・支援物資の整理 ・子どもの見守り ・花の手入れ
- ・イベント出展時の協力 ・東日本大震災被災地応援事業の企画 ・観光 PR 活動 ・SDGs の普及 ・青少年への相談・学習支援 ・数学を教えらるボランティア ・切手の回収、整理にご協力いただける方 ・国際交流に関心がある人 ・調理ボランティア ・高齢者の話し相手 ・イベントの講師 ・レクリエーションの企画 ・軽作業 ・会場設営
- ・教育機関で子供・学生等に喫煙防止の授業を行ったり、啓発活動を行ったりしてくれるボランティア ・送迎ボランティア ・子供向けイベントのサポート ・花壇、プランターの維持 ・雑木林等の保全作業 ・青少年の居場所作り
- ・日本語を外国人に教える ・地図を折ってくれる人 ・清掃ボランティア ・親子向けの読み聞かせ

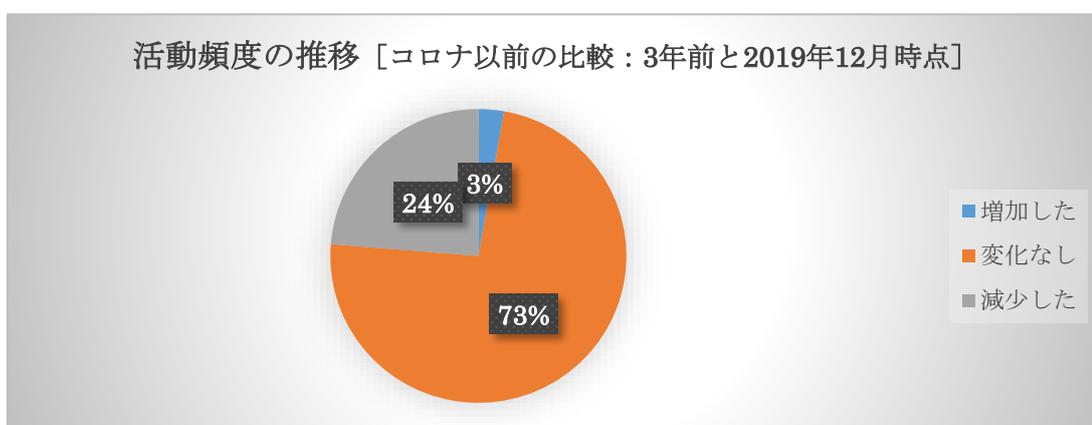
問 7-4 【ボランティアを必要としない理由】問 7 で「必要としない」と回答した団体におたずねします。「必要としない」理由をお聞かせください。[自由記述]

- ・団体で不足がない ・学校の部活動であるため ・コロナ禍のため ・特になし
- ・参加者の自主的活動による集まりのため ・専門性が高いため ・親の協力が得られるため ・オンライン上の活動が主のため ・小規模の活動のため ・参加者が当番で役割分担しているため ・活動に高度な知識が必要なため
- ・有償で活動を行っているため ・資格を持っているインストラクターで運営しているため ・高度なスキルが必要なため
- ・活動ができていないため

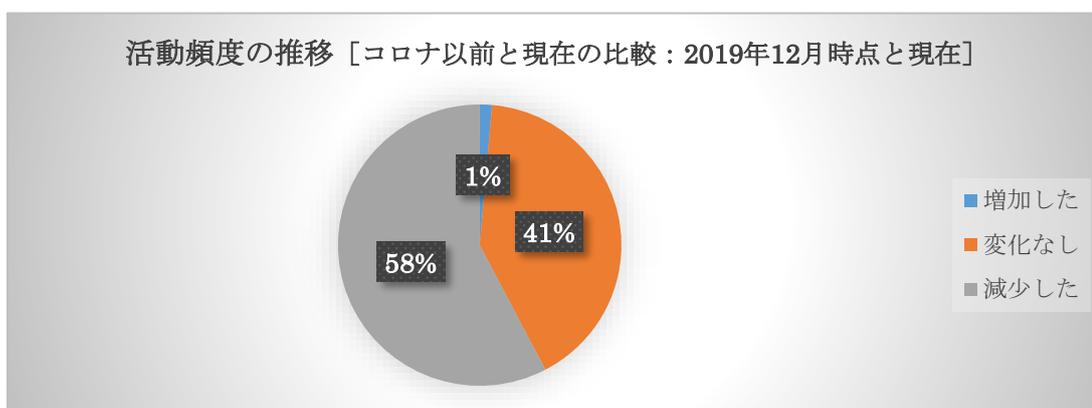
問 8 団体の活動頻度についておたずねします



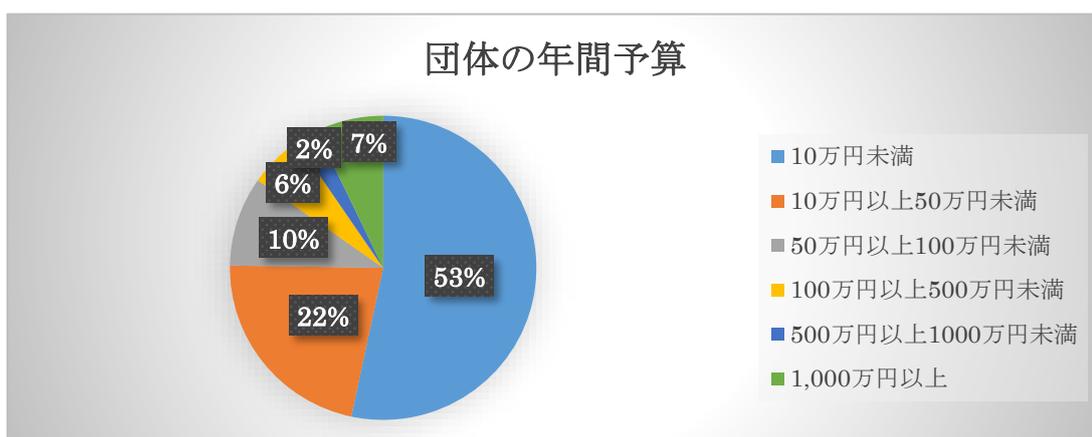
問 8-2【頻度の推移[コロナ以前の比較:3年前と2019年12月時点]】



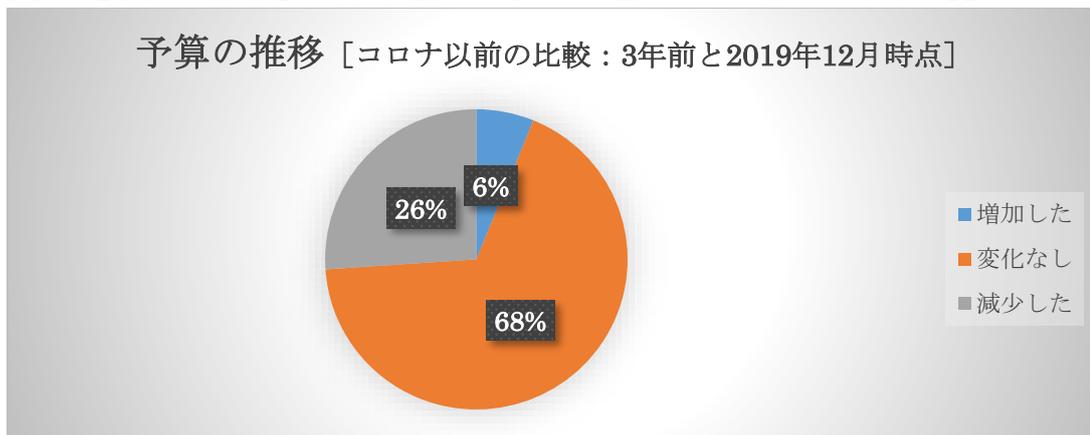
問 8-3【頻度の推移[コロナ以前と現在の比較:2019年12月時点と現在]】



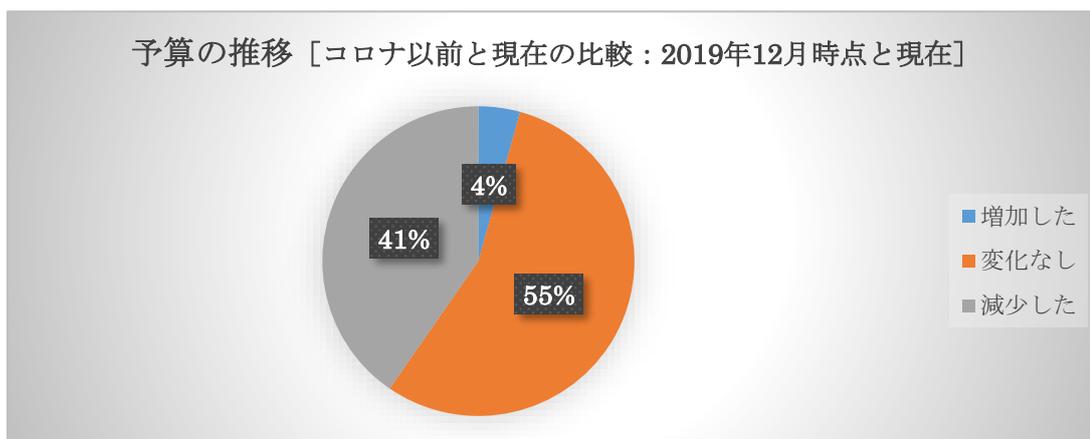
問 9 団体の年間予算(令和2年度)についておたずねします。



問 9-2【予算の推移[コロナ以前の比較:3年前と2019年12月時点]】

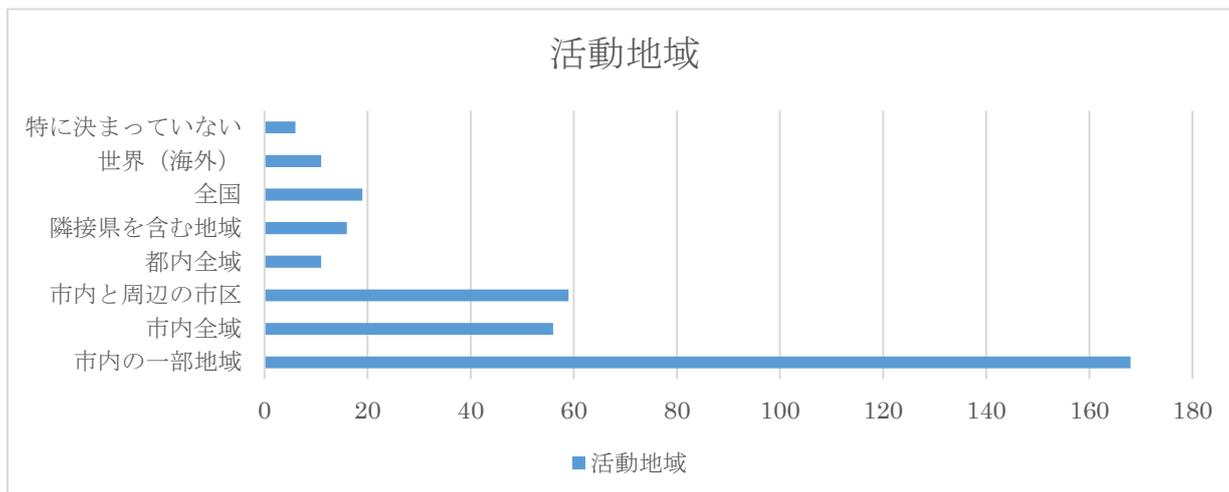


問 9-3【予算の推移[コロナ以前と現在の比較:2019年12月時点と現在]】

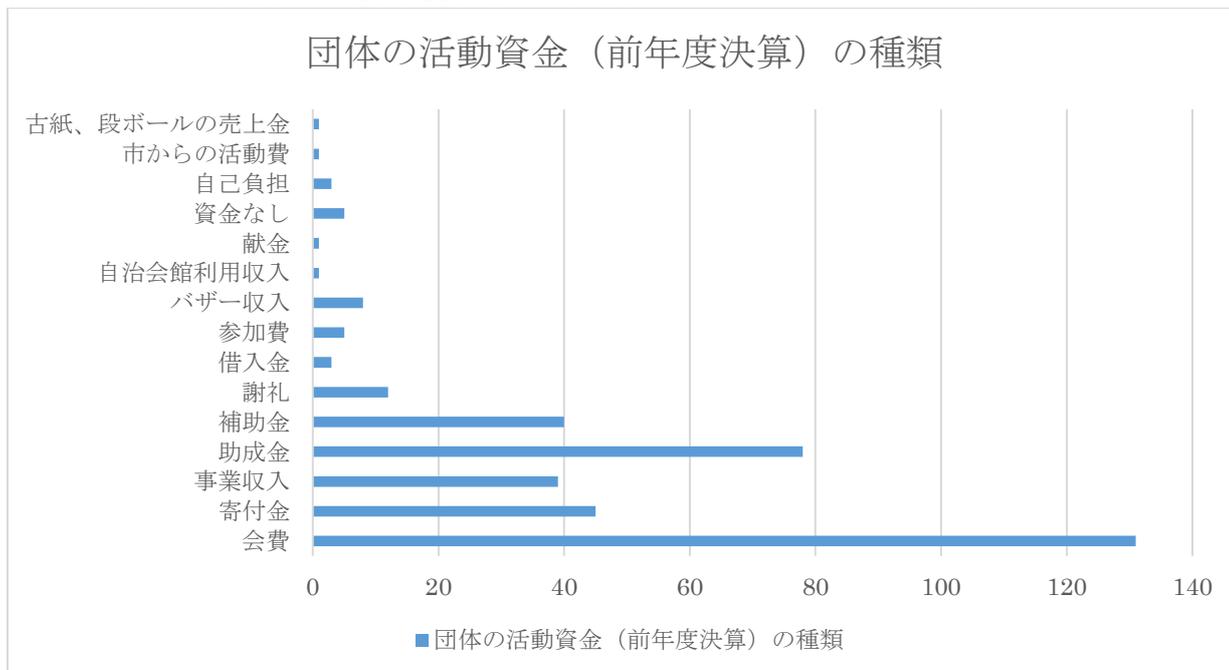


A-2 貴団体の状況等についておたずねします。

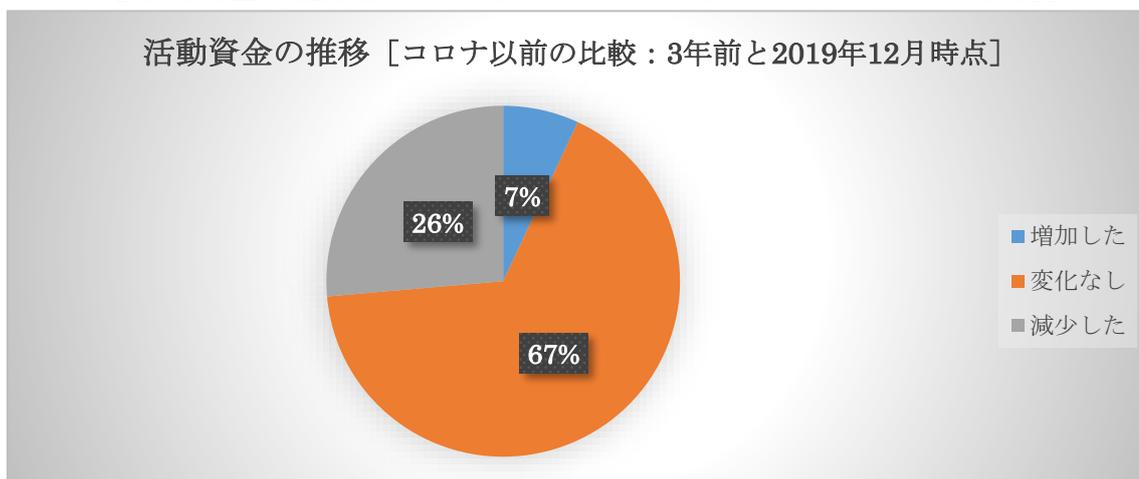
問 10 団体の活動地域についておたずねします。



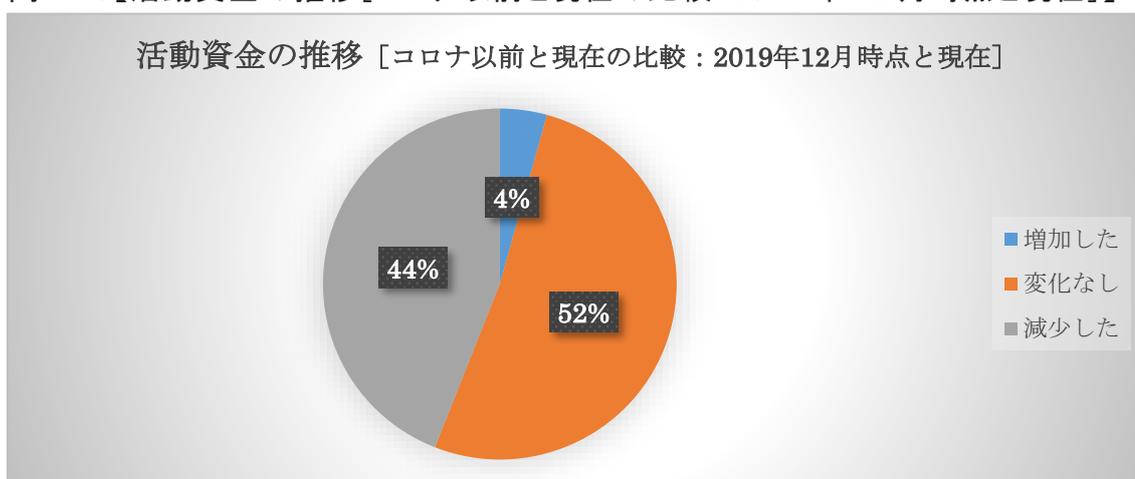
問 11 団体の活動資金(前年度決算)の種類についておたずねします。



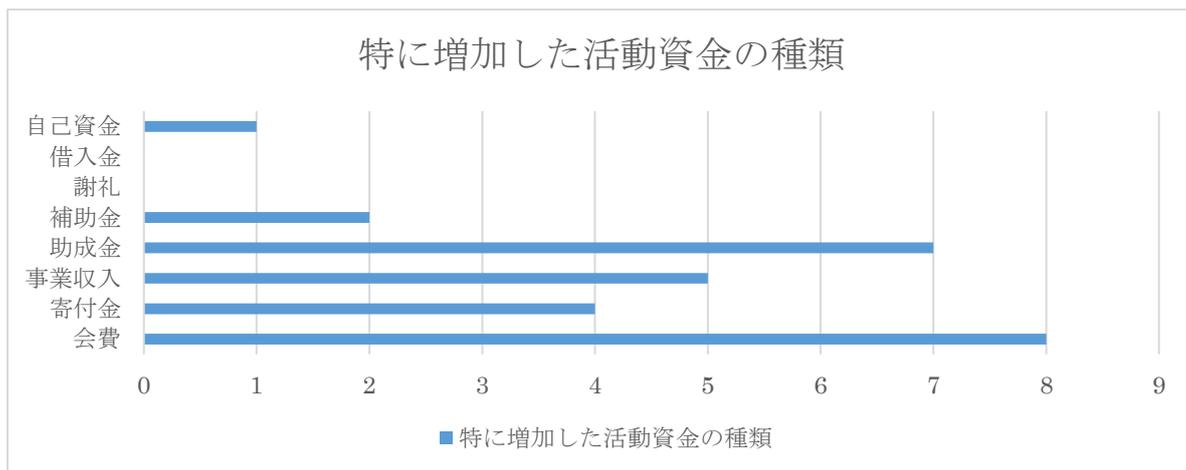
問 11-2【活動資金の推移[コロナ以前の比較:3年前と2019年12月時点]】



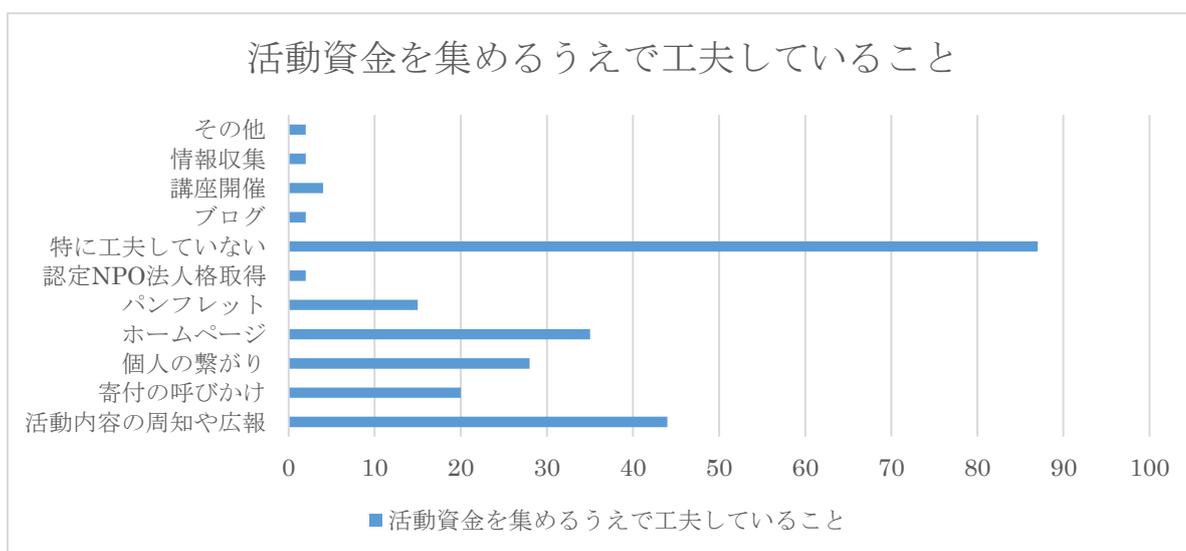
問 11-3【活動資金の推移[コロナ以前と現在の比較:2019年12月時点と現在]】



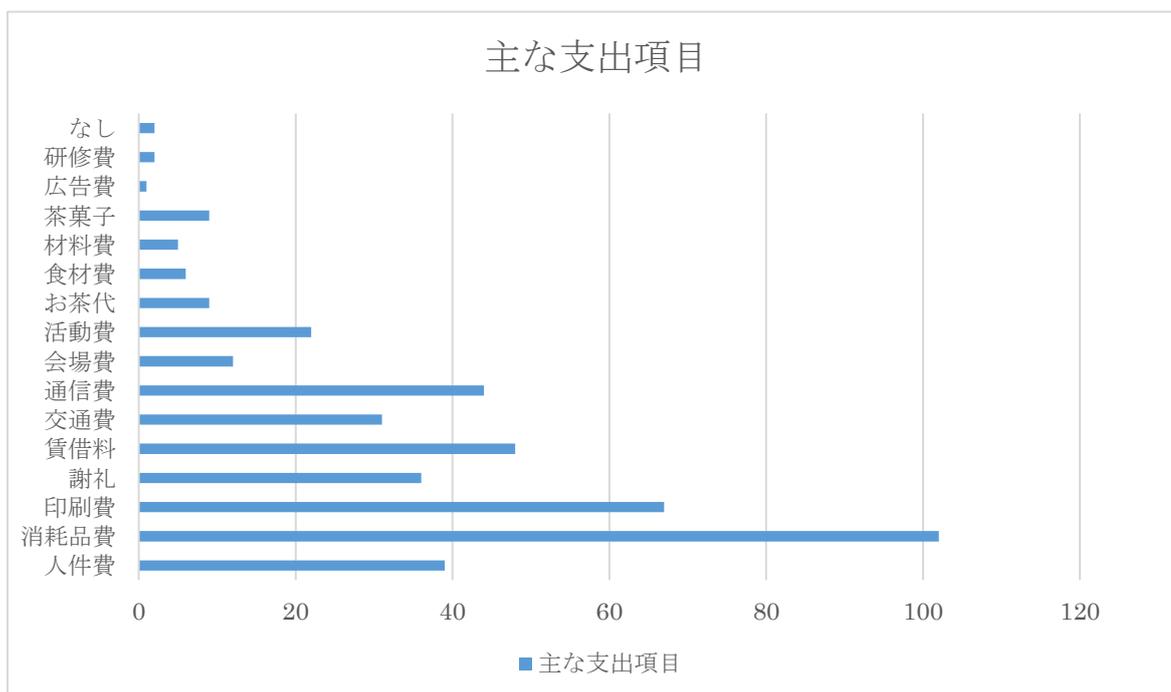
問 11-4【活動資金で特に増加したもの】問 11-2 または問 11-3 で「増加した」と回答した団体におたずねします。特に増加した活動資金の種類を選択してください。



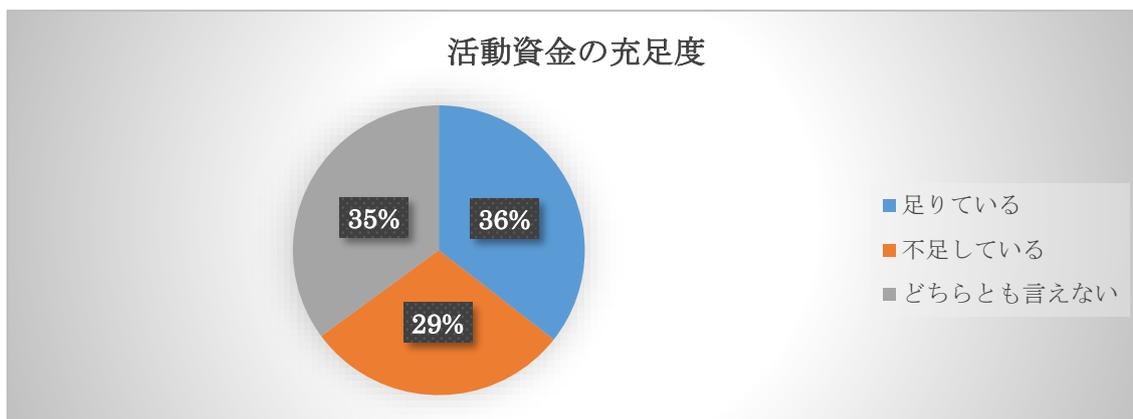
問 11-5【活動資金を集めるうえで工夫していること】



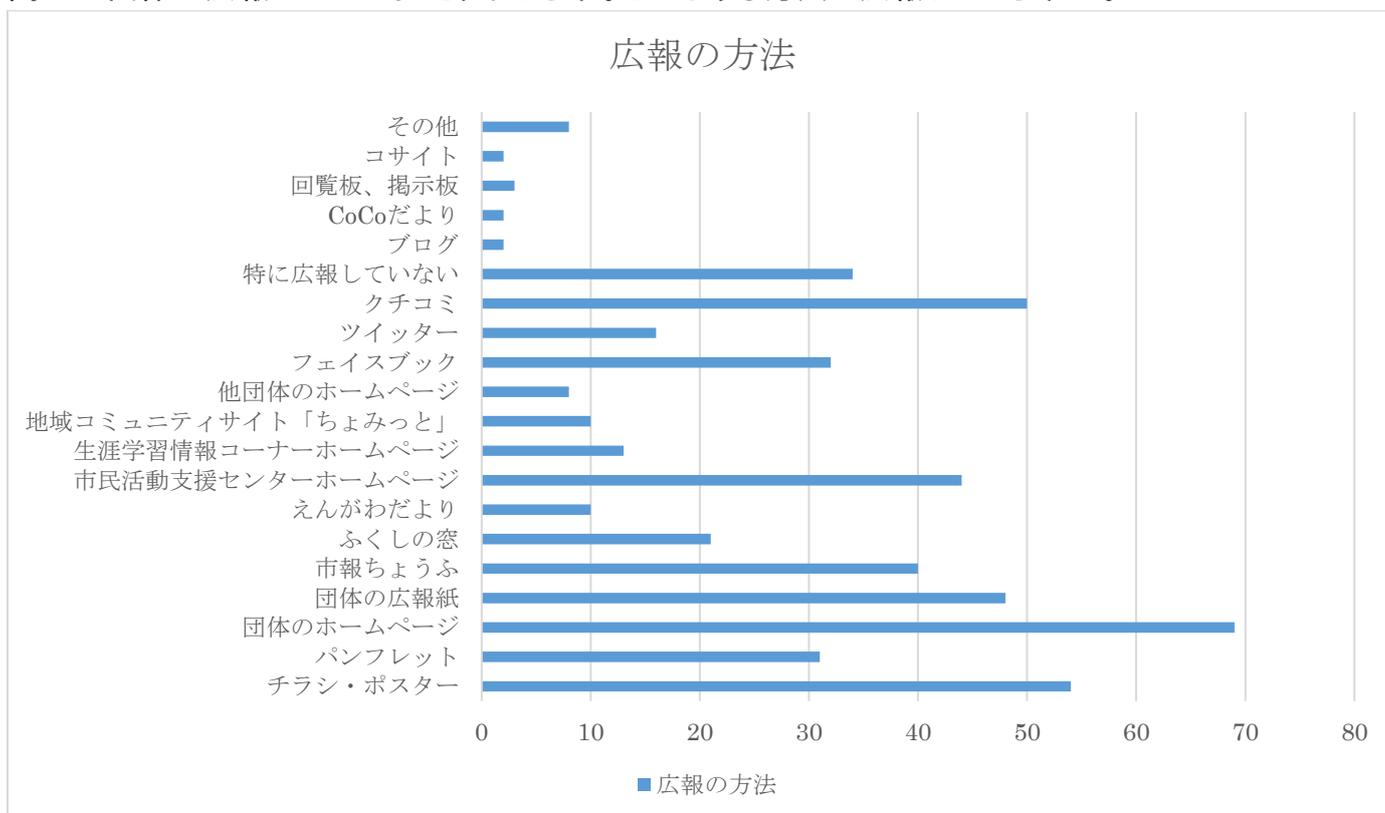
問 12 団体の主な支出項目についておたずねします。(上位 3 項目をお選びください)



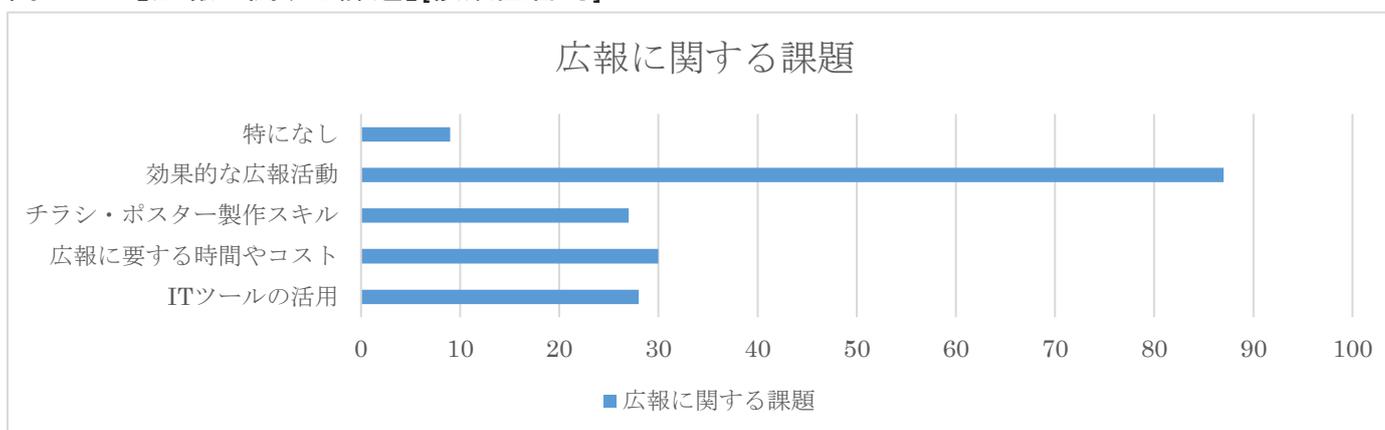
問 12-2 【活動資金の充足度】



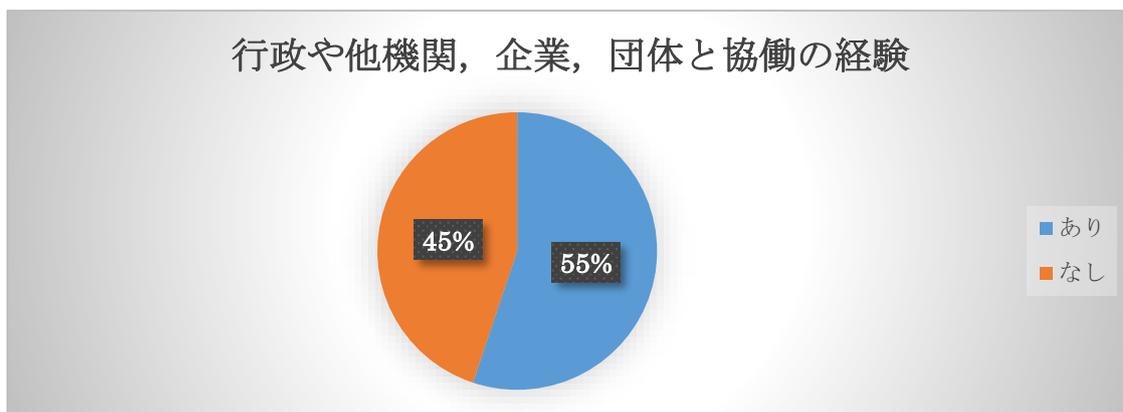
問 13 団体の広報についておたずねします。どのような方法で広報していますか。



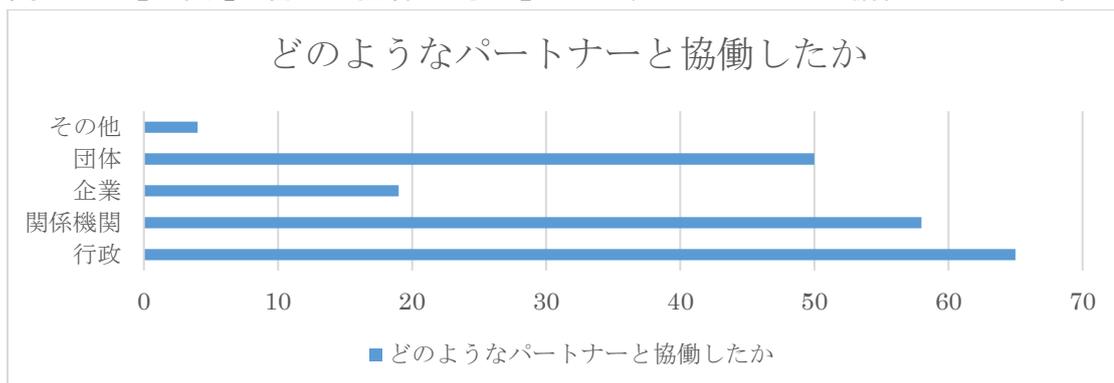
問 13-2 【広報に関する課題】[複数回答可]



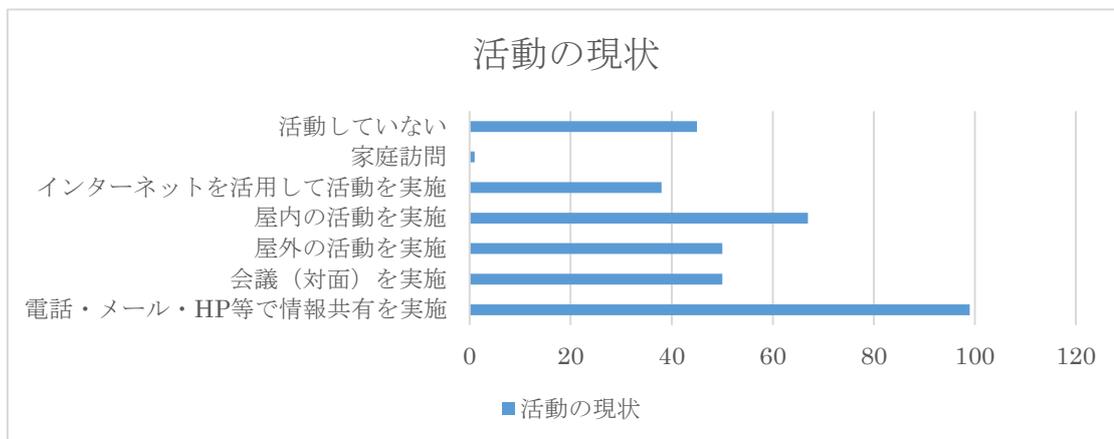
問 14 これまで行政や他機関，企業，団体と協働の経験はありますか。



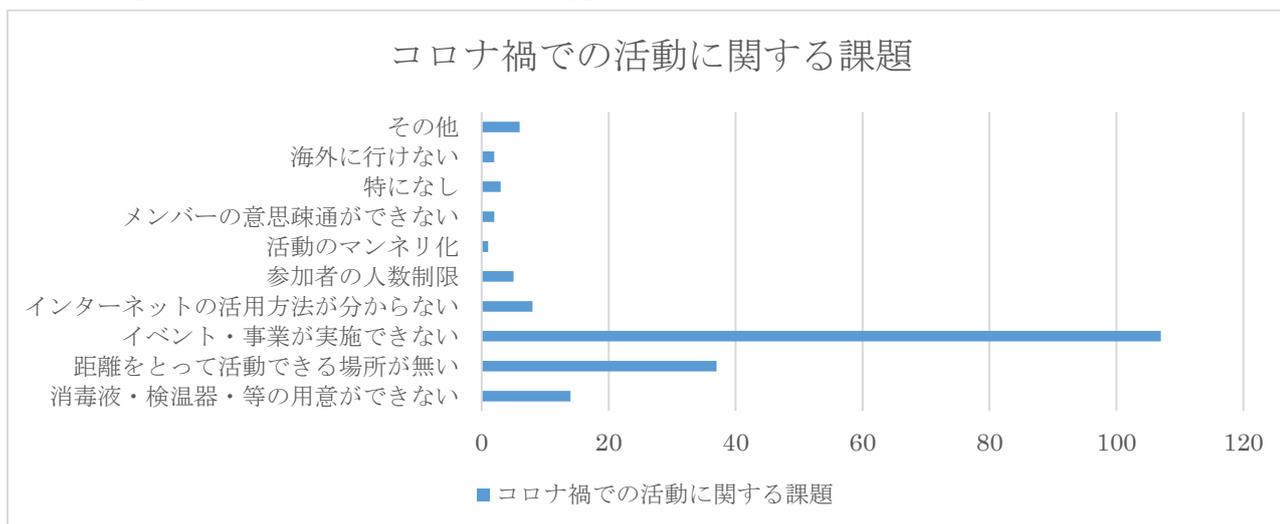
問 14-2 【「あり」と答えた団体の方へ】どのようなパートナーと協働しましたか。



問 15 コロナ禍での活動についておたずねします。活動の現状を教えてください。



問 15-2 【コロナ禍での活動に関する課題】



問 16 「将来こんな活動をしていきたい」「こんな団体になりたい」「こんな地域や社会にしたい」等貴団体の将来のイメージがありましたらお書きください。[自由記述]

- ・特になし ・引き続き上映会やイベントをしていきたい。大人向けが多いが子ども向けの上映会や映画制作体験会もやっていきたい ・現在行っている調布市報の音訳、テープ作りを続けていきたい。コロナ禍以来、老人ホームでの朗読会、お話し会が出来ていないが復活したい ・ご近所の方と仲良く、みんな顔見知りになること、お互い助け合い少しおせっかいくらいになり、気持ちよく過ごせたらと思います ・電話相談ができる人間を増やしていきたい
- ・こころ豊かに暮らせる福祉文化をつくって夢と希望を発信していきたい ・人が集まったら塗り絵で会話ができ、塗り絵の場所増やしたい。気軽に楽しめる塗り絵教室を増やしたい ・今まで同様、楽しく歌って、おしゃべりして、活動が早く出来る事を希望している ・編み物を通じて集まり楽しい時間をつくる ・障がい者だけでなく、高齢者、健常者、共に楽しめるスポーツになればよいと思う ・障害を持つ人たちのことを理解してもらえるように活動したい
- ・障害年金についてより気軽に相談を受けられるようになりたい ・様々な外国の料理を作って楽しみたい
- ・障害の有無に関係なく共生していける社会 ・精神障害者、家族が抱える課題について当事者ならではの解決を提示し、解決施策を行政に要望し、実現につなげ、精神障害者の福祉の推進を図る団体になりたい ・依然として抵抗感を持たれている精神障害が受け入れられる社会になるような推進を図る団体になりたい ・若い人が興味をもって参加できる活動 ・ほっとする居場所の提供 ・地域住民から頼られる自治会にしていきたい ・自分の足で元気に生活するために健康体操を細く長く継続していきたい ・「なくてはならない」と調布市民に思ってもらえるような情報発信媒体に成長させたい ・アルコール依存症者の回復を目的とした自助会が(AA)社会の中で普及していくこと。そして一般の人々と共に普通に生活していけるような社会づくり ・居心地の良いクラブと会員が満足してくれること
- ・生涯学習、教育として認知され学校や公共の団体と活動したい ・もう少しメンバーが増えてほしい ・気軽に集まってなんでも話せる場所でありたい ・公共性の高い目的、内容を継承しながら民間性を活かした質の高いサービスを提供して、利用者、ボランティアを増やしていき市民に信頼される安全安心な運営、親切な対応、確実な進行を心がけスタッフ一同熱意をもって活動していきたい ・和太鼓を通じた仲間づくりの継続 ・メンバーを増やしたい
- ・中心になる会員の若返りと時代にあった環境活動の推進 ・10年先も健康な体を目標に継続したい ・地域の他の団体と連携し、小学生を中心にした青少年世代が健やかに成長できるよう尽力したい ・お年寄りや様々な困難を抱えた人々に元気になってもらいたい ・ささやかな活動ながらえんがわファンドに協力でき、併せてボランティア同士の輪を繋いでいけるという自負がある。細々とでも続けていきたい ・児童養護施設などの社会的擁護者が、偏見なく理解され受け入れられる社会にしたい ・団体の知名度向上のためアピールしていきたい ・子ども達がのびのび遊び、虫・花・樹林とふれあえる場を維持したい ・定期的な活動の場を確保したい ・高齢化していく中でお互いに健康維持のためお茶の会を通して話し合う場を持ち続けたい ・食のセーフティネットを目指して、支え合いの社会を作っていきたい ・途上国の仲間と共に進歩する姿勢を持つ団体でありたい ・障害者の個人、グループ、事業所、学校等に適切な運動指導者を派遣する、または指導者の育成をしたい ・安全安心なまちづくり ・プラチナ世代の地域デビューの受け皿となり、仲間作りができる場になりたい ・調布の自然、伝統、文化を守り、次世代が住み良いまちづくりに寄与したい ・年齢や性別等に関係なく、気軽に立ち寄れる活動につなげていきたい ・孤立しがちな高齢者をつなげたい、高齢者も役立つ社会づくり ・屋外ステージでのオペラが出来ると素晴らしい。無料で、有名オペラのハイライトを見てもらい、オペラに親しんでもらいたい ・地域コミュニティの活性化に貢献し、人にやさしい社会を実現したい ・自分達も地域の人達も元気になるコンサートがしたい ・コロナ前の様に、福祉施設、高齢者施設、小学校等でリコーダーコンサートを行い、調布の様々な世代に音楽を届けたい ・そば打ちを通じて地域貢献
- ・異年齢の交流の場を広めて行きたい ・市内の様々な団体での勉強会で、講師活動がしたい。喫煙率を下げ、喫煙や受動喫煙によるタバコの手害で苦しむ人を減らし健康を推進していきたい ・地域に愛されている部活動 ・100年継続できるスポーツクラブにしていく ・児童のみでなく、OB(成人)を対象とした事業(活動)を行いたい ・入会して楽しかったと思える老人クラブにしたい ・若い世代との協力、協働 ・リサイクルショップを通して地域のボランティア参加を募り、高次脳機能障がいの理解を広げる啓発をしていきたい ・糖尿病をはじめとした生活習慣病の減少

・青少年が社会とつながり、社会で活躍することの手助けができる団体になりたい ・学生や児童へ書の普及を通じて健全育成に寄与したい ・高齢者が外出を楽しみにできるような会にしたい ・子どもたちはもちろんのこと、誰もが自分らしく安心して生きられる社会にしたい 地域(とりわけ子ども)を取り巻く諸課題に対応できるような、心をつなぐ緩やかなコミュニティ形成のお手伝いをしたい ・日常生活で困ったとき、災害時に助け合う絆づくり ・健康で張り合いのある生活が送れるような活動の継続 ・障害者が生きがいを感じられる社会、意識せずとも当たり前で共生できる社会づくり

問 17 貴団体が日頃から感じている調布のまちや身近な地域の課題、団体運営上の課題等がありましたらお書きください。

・特になし ・団体メンバーの高齢化によりオンライン会議などの対応が難しい。高齢者に向けての情報発信も同じで、来て欲しい人に届いていないのではないかと思う ・地域の方々にこんな居場所があることをもっと知ってほしい

・なかなか活動ができない ・調布市内のいろいろな場所で活動できるようにしたい ・障害のことをもう少し理解してもらいたい ・在住の外国人が楽しくおしゃべりできるような場が増えればと思う ・活動をつないでくれる後継者の育成

・市民に情報が伝わらないことが課題 ・活動において差別(認識不足)があり、生活の一部の活動として理解してもらいたいと強く思っている ・自立した団体として、運営を継続していく難しさがある、次の担い手の育成も課題 ・良かれと思って行っていることが、立場によって異なることがある ・入会して10年になるが、その後の入会者が少ない。先輩達も高齢になり来られなくなった人も多い ・調布駅前の木を切らないでほしい ・助成金の増額をしてほしい

・活動場所が不足していること ・より多くの人に知ってもらうための情報発信 ・募集しても会員が集まらないこと

・団体運営において恒常的にマンパワーが不足している。また活動資金も同様に不足している ・公助のハードルが高く本当に必要としている人に届いていないように感じている。互助の輪を拓ける必要性をコロナ禍で更に強く感じる

・国際交流にもっと積極的に興味を持ってもらいたい ・オペラの活動のため、大きく声を出せないのは悲しい

・コロナ禍で施設でのボランティア受け入れがストップしているため、活動再開の見込みがたたない ・若いメンバーを増やしたいが、それに対応するエネルギーが高齢化したメンバーには厳しい ・季節感を伝えたり、日陰を作ってくれる樹木が市民の同意なしで伐採されている ・行政にもっと団体の活動を理解してもらいたい、寄り添う姿勢がほしい

・他の団体と協働していきたいが、きっかけがない ・調布経済新聞やちょうふどっとこむ等の調布のメディアになかなか活動を取り上げてもらえない ・近隣住民が気楽に集える拠点を各小学校区単位に設置してほしい ・コロナ禍では、屋内で歌う活動について制約が多い ・市民の地域参加の充実 ・福祉のまちと言われている調布だが、高次脳機能障がいに関しては関心が薄い感がある。我が身にも起こるかもしれない中途障害が埋もれないようにしたい

・青少年の現状に対して、課題や不安を感じている方とつながれていない ・活動に関わる市民が限られている

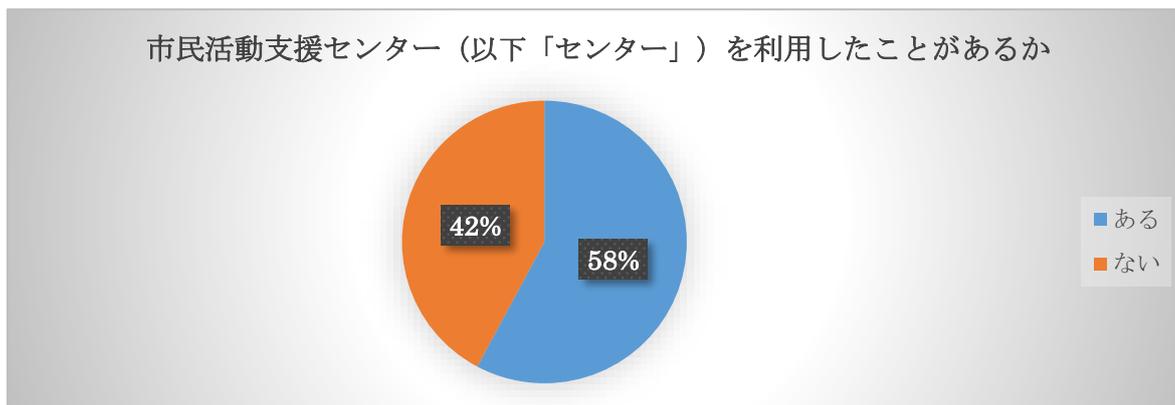
・若い人達との交流を増やしたい ・活動している会場の設備の充実をしてほしい ・交通の不便による生活の不便

・活動場所の使用料が高く、活動しにくい ・団体の認知度向上が課題 ・団体の区別なく、安価で安心して集まれる場が近くにほしい ・ボランティアの発掘、地域活動に参加する人を増やすための事業、イベントを継続してほしい

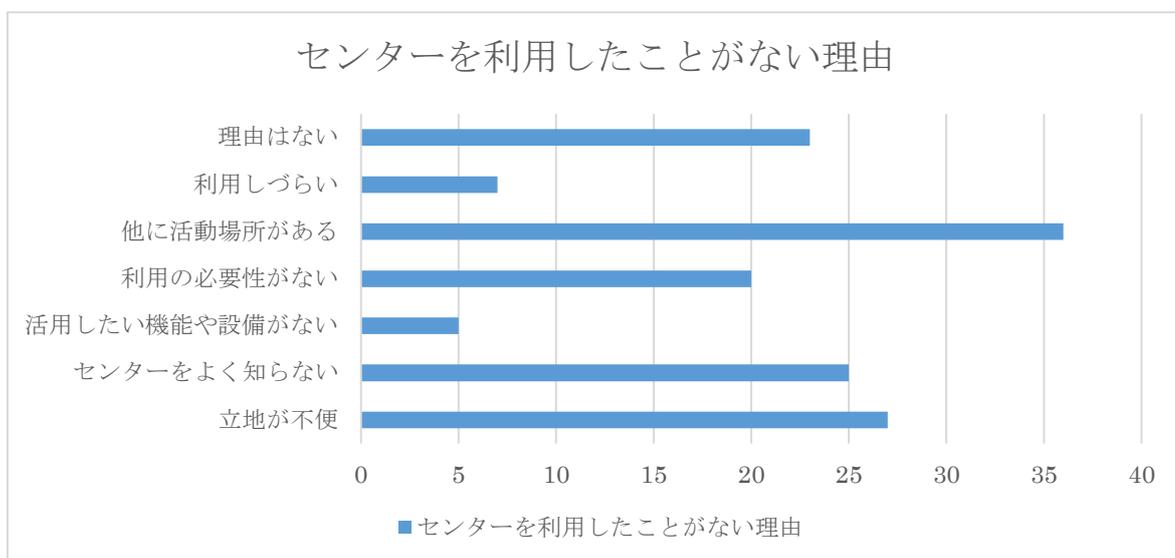
・もっと市民と結びつく場が欲しい

B 市民プラザあくろす市民活動支援センターについておたずねします。該当する項目に✓をつけてください。

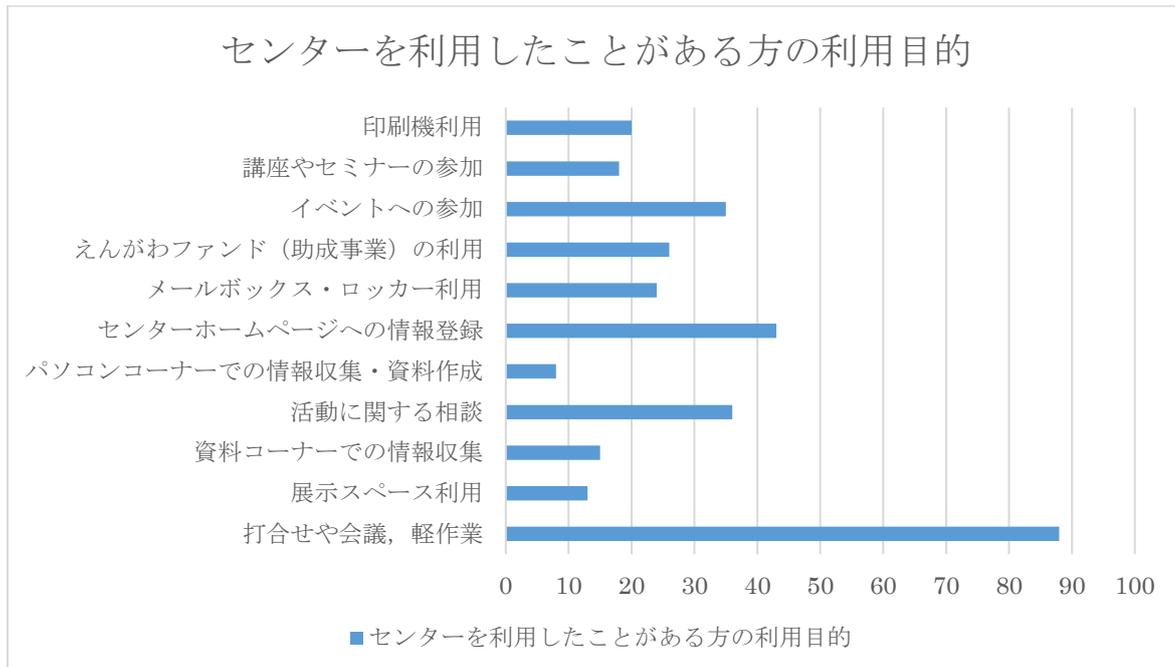
問 18 市民活動支援センター(以下、「センター」)を利用したことがありますか。



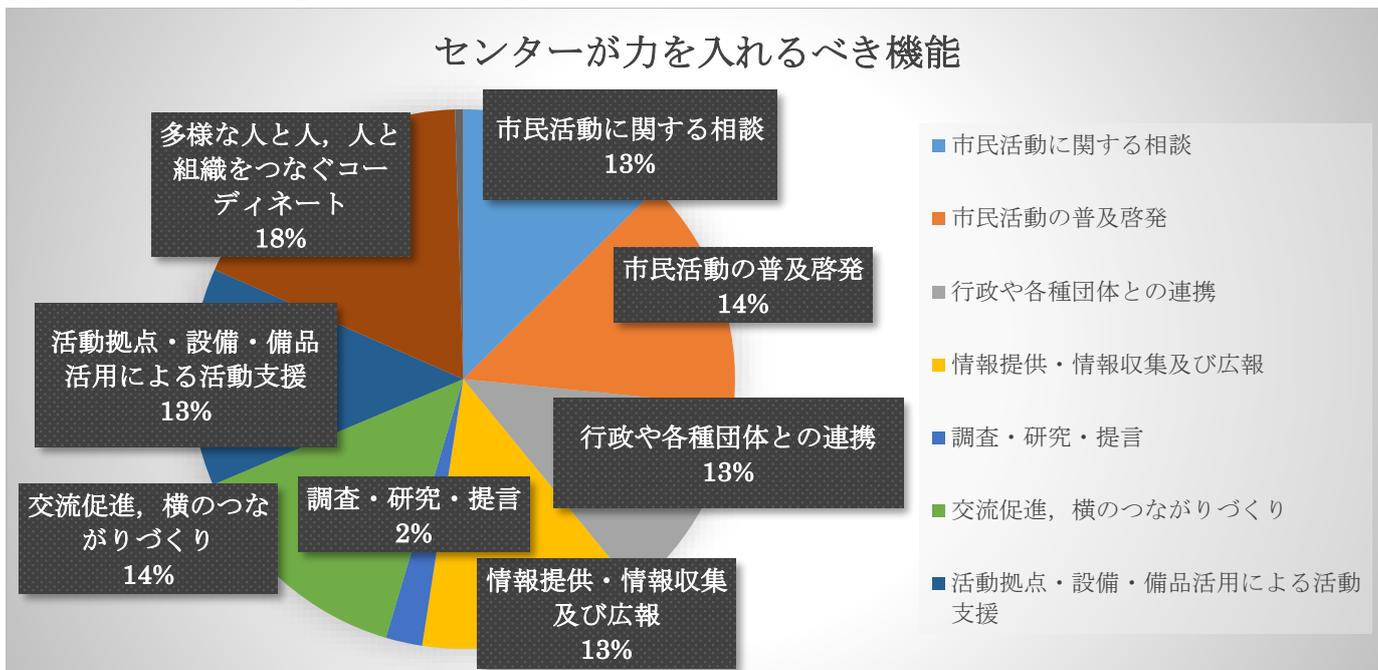
問 19 【問 18 で「利用したことがない」と答えた団体の方へ】 その理由についてお聞かせください。



問 20 【問 18 で「利用したことがある」と答えた団体の方へ】どのような目的で利用しましたか。



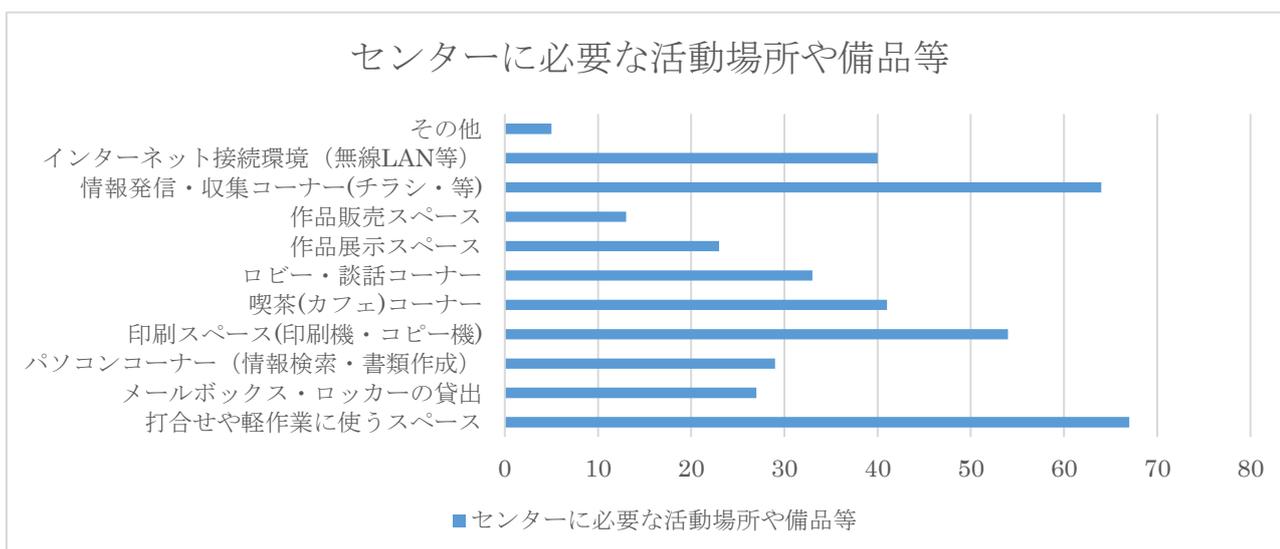
問 21 センターが力を入れるべき機能はどのようなものですか。



問 22 センターに取り組んでほしい事業企画のアイデアがありましたら、お聞かせください。〔自由記述〕

・特になし ・パソコン教室 ・人との関りが困難な若者の為の一時的な就労場所があれば良い ・食事しながら互いの悩みを話せる場 ・今回初めてセンターを知ったため、わからない ・ボランティアの発掘、地域活動に参加する人を増やすための事業やイベント ・まち活フェスタの企画は良いが、もう少し工夫して欲しい ・イベントは難しいかもしれないが、趣味活動の発表の場がほしい ・イベントやボランティア活動の配信 ・同じようなテーマで活動している団体とつながる機会があれば参加したい ・中・高校生世代の居場所 ・自治会の将来と改革をどうすべきか提案すること ・地域で他国の文化を楽しむ企画 ・パソコン、スマホの知識を得たい ・市内の空き家を活用し、市民や団体が気軽に集まれる場を開設する ・団体の活動パネルの展示やパンフレットの設置 ・コロナ禍でテレワークが進み、調布にいる時間が増えた人や時間に余裕ができた人が多くなっている。そうした方を対象として、地域活動に興味を持ってもらえるような情報発信などをしてほしい ・人と人を結ぶ機会の創出 ・団体の活動展示をしてほしい ・国領駅前広場を使用した福祉まつりのようなイベント ・新設図書コーナーと関連して、市民活動に関連した本や活動についての「読書会」「映画会」など ・出たい人が出演できる音楽発表の集い ・出前講座、講演メニューなどの一覧をウェブサイト作成・公開してほしい

問 23 センターに必要な活動場所や備品等はどのようなものですか。

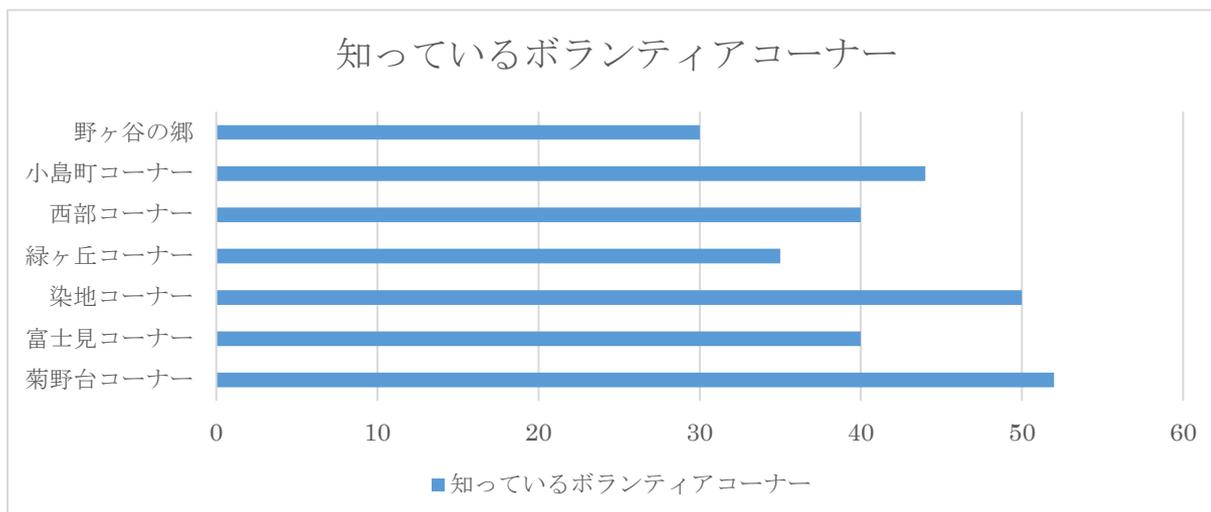


問 24 市民活動支援センターでは、センターホームページ、広報紙「えんがわだより」、調布市社会福祉協議会広報紙「ふくしの窓」、公式 Twitter、公式 LINE、市民活動団体リスト、市報や市のホームページ等を用いて市民活動に関する情報提供を行っています。各種広報媒体に関するご感想や掲載してほしい情報がありましたらお書きください。[自由記述]

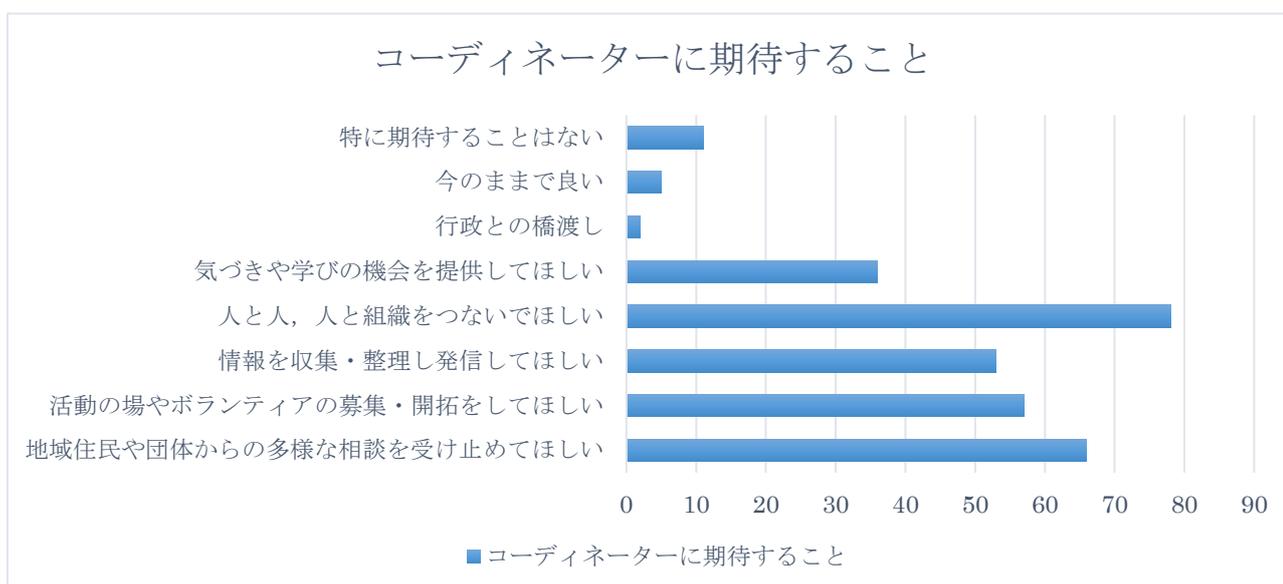
・特になし ・富士見コーナーから調布 FM 出演依頼があり、その後リスナーより当団体の利用希望が多くあって嬉しかった。また、広報誌えんがわだよりに活動内容を載せてもらったことがあり役立った ・老人クラブへの入会に関する情報提供 ・市民活動団体リストを見て、入会希望者が三名来た。このような活動をしている団体があると知ってもらえる媒体はありがたい ・活動スケジュールを月単位で掲載できる媒体があると嬉しい ・ふくしの窓やえんがわだよりは、皆さんよく見ていることを、活動中の会話の中で感じている ・ボランティア募集、活動紹介の充実 ・視覚障害者にも伝わる広報について検討してほしい ・認知度の低い活動にもスポットを当ててほしい ・英語でも情報提供してほしい ・広報の対象が偏っているように見える

C あくろす以外の市内7箇所の市民活動支援の拠点(各コーナー)についておたずねします。該当する項目に✓をつけてください。

問 25 以下のコーナー(ブランチ)のうち、知っているコーナーに✓をつけてください。



問 26 各コーナーには市民活動を支援するコーディネーターが配置されていますが、コーディネーターにどのようなことを期待しますか。



問 27 市民活動支援センターは「まちのえんがわになりたい」をコンセプトに人と人が集い、交流する場を目指し、地域で活躍する幅広い市民活動を支援する拠点として、みなさまの声を聞きながらこれからも様々な事業に取り組んでいきたいと思ひます。市民活動支援センターや行政にご意見などありましたらお書きください。〔自由記述〕

・特になし ・オンラインを使ってつながりを作ってほしい ・センタースタッフと会える日を楽しみにしている ・猫ボランティア用の SNS をを作ってほしい ・菊野台コーナーは活用してみたい ・コーディネーターの方々がとても気持ちよく助けてくれ感謝している ・いつも無料で使える場所があることは、市民にとって大変有難い。今後も市民の立場になって事業に取り組んでほしい ・障害のある子どもたちが雨の日でも元気に遊べる場所などの情報があれば教えてほしい ・調布の方々に団体の相談業務(ピアカウンセリング)を知ってもらいたい。情報発信等に力を貸してもらいたい ・市民活動支援センターのおかげで継続的に活動が出来ていると思う。利用料がかからず、10名で集まれ、備品が置ける、印刷ができるなど、本当に助かっている。また、相談すると答えてくれるスタッフにも感謝している

・駅前広場を活用した市民活動を活性化するための企画を生み出したい ・これからもアナログでの通信も大切にしてほしい ・市民活動支援センターのおかげで、任意団体から NPO 法人になることができた。市内各団体に対して、親身な相談を続けてほしい ・市民活動支援センターと地域福祉センターなどの関係がよくわからない。縦割り行政の弊害と感じる ・「まちのえんがわになりたい」のコンセプトが時代に合わずわかりにくいと思う ・リタイアしたシニア層の地域参加を高めるためのアイデアを考えるとありがたい ・元気な高齢者が安心して集える場所を教えてください ・コロナの現状では、直接交流が難しいため、ZOOM 会議などの本部ができる施設がほしい ・調布市は市民活動が盛んだと感じるが、一方で横のつながりを作るのが難しいと感じているため、横のつながりを育む機会や団体の紹介をしてもらいたい ・登録しなければ使えない、活動しなければ集うことができない、なんとなく来て、近所の人が集い軽い飲食で話し合う、こんな施設がほしい ・オリンピック開催にあたり、他国の文化を伝える場を提供して欲しい ・支援センター等のサイトを通じて団体がさらに様々な活動情報を発信できるようになると良い ・昨年度 STAYHOME ボランティアの企画はすばらしい企画だった。若い中・高・大学生との接点があった ・マッチング機能の強化に期待している ・オンラインでのつながりとリアルでのつながりの両方が継続できると良い ・市内市民団体にメールなどで一斉に情報発信ができるような仕組みができると良い ・センターを中心とする人と人のつながり、輪はすばらしい ・アンケートを通じて初めてわかったこともあり、ありがたかった ・楽しい上石原のえんがわになれるように活動していきたい。そのための支援をお願いしたい ・なんでも聞けたり、相談できたりする場所であって欲しい

・なんのつながりもない任意団体に対しても、協力・支援してくれるのでありがたく思っている ・センターの運営委員会がとり組んできた「中・長期運営方針」の確実な実践に寄り添っていききたい

・スタッフがいきいきと活動し、人と人、人と組織をつなげてくれることが一番だと思う。ぜひ、私日常の活動場面を見て、伝えてほしい ・私達の世代(60~70代以上)は、「えんがわ」のイメージができるが、若い世代はイメージができないように思う

#### IV 市民活動支援センターの機能強化に向けて

「自立した市民社会の創造」の実現に向け、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくには、これからどのような機能を強化していく必要があるか。今回の調査結果を踏まえ、当センターが取り組むべき課題等を整理したい。

##### ■コロナ禍での活動について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、団体の活動を継続したいという強い思いに反し、会場定員の制限や活動回数の制限、活動資金の減少など、様々な変化が生じていることが見えてきた。問1-5の設問について、コロナ前(2019年12月時点)の活動に対する満足度と比較し、「低くなっている」と回答した団体が120団体以上と、半数以上にのぼっている。

特に、感染リスクが高いと言われる高齢者や障害者が中心となる活動では、活動再開の目途が立たない団体も

多く、これまでのつながりの維持はもちろん、どのように活動を継続していくか自体に課題を抱えている状況があり、中間支援組織として、どのような支援ができるかを考え、対応していくことが求められている。

#### ■活動年数が長い団体への支援

問3の回答において、活動年数が10年以上経過している団体が回答総数の半数以上にのぼっている。また、問5を見ると、団体の平均年齢が60代以上の団体が7割を超え、活動団体の高齢化の問題も顕著となっていることがわかった。これらの団体においては、会員数や活動資金の減少傾向もあり、活動の活性化や継続のためには、若い世代の参加や次の担い手となる人材の育成が急務と言える。

#### ■団体のボランティアニーズ

コロナ禍の影響を受け、多くの団体が受入れを中止している中、回答総数の39%が「ボランティアを必要としている」（問7）と回答し、その中の41%の団体が現在「募集している」（問7-2）と回答している。感染リスクのある中でのボランティアということもあり、ボランティアガイダンスや相談窓口への来場者も減少傾向ではあるが、工夫を凝らし、活動を継続しようとしている団体のボランティアニーズに応えられるよう、情報の発信や募集方法の検討を行い、コロナ禍でも止まることのないコーディネートを行う必要がある。

#### ■広報の課題について

問13-2 広報の課題について、半数近くの団体が「効果的な広報」を課題に挙げている。自由記述を見ていくと、活動の周知はもちろん、イベントの広報やメンバー募集の広報など、活動の核につながる広報に苦労している団体も多く、支援の必要性が高いことがわかった。その一方で、問13を見ると、当センターのホームページやえんがわだよりを活用した広報を行った団体がまだまだ少なく、「効果的な広報」を行いたいと考える団体に対し、センターの広報機能が認知されていないという課題も見えてきた。中長期運営方針の5本の柱の1つ「行き交う情報の有効活用」でもセンターの広報媒体や情報発信力の強化を掲げているため、必要な情報がきちんと届けられるよう、一層の努力を行う必要がある。

#### ■多様なパートナーとの協働の推進に向けて

問15 協働の経験に関する設問で協働の経験「あり」の回答が55%と平成27年度の調査（53%）と比較してほぼ横ばいという状態となっている。前回と今回の調査対象団体数を始めとした諸条件の違いや、コロナ禍で活動休止や活動の形態を変えている団体が多い中でのアンケートであることを勘案する必要があるが、協働による地域課題の解決に向けた取組が広がるよう、当センターの取り組みを強化する必要がある。

#### ■当センター・ランチが力をいれるべき機能

問21の設問では、「調査・研究・提言」という回答が極端に低く、その他の機能については、概ね同割合の期待があった。平成27年の調査では「コーディネート」機能と回答した団体が多かったが、「普及啓発」や「情報発信」と回答した団体が多くなっている。これは、コロナ禍において、活動の制限ががり、人数や頻度が減少しているため、これらの機能への期待が高まっていると考えられる。制限の緩和や感染者数の減少を見据えた普及啓発活動や情報発信について、検討を行い、活動再開時の活力となるよう準備したい。

## V おわりに

今回の調査（団体編）を通じ、改めて調布のまちにはこんなにも多種多様な団体が、強い思いを持って活動されていることを実感しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの団体がこれまでにないような制約を受け、いくつもの課題に直面していることも見えてきました。

当センターでは、コロナ禍においても各団体の抱える課題の解決に向けて支援を進めていくとともに、人と人、団体と団体、団体と企業、団体と行政などのつながりを止めることなく、維持・継続していけるような取り組み

を進めていく必要があると痛感しました。

センターが開設されてから18年目を迎え、調布市社会福祉協議会がボランティアセンターを開設し、調布市内各所にボランティアコーナー（現在は市民活動支援センターのランチ）の運営をスタートしてから30年以上の年月が経過しています。

これらの期間の中で、多くの市民の皆さまからのご協力をいただき、様々な取り組みを行ってきましたが、残念ながら当センターの認知度はまだまだ十分とは言えず、より一層の努力の積み重ねと情報発信が重要であることを再認識しました。

今回の調査の中で、大変ありがたいことにセンターへのお褒めのお言葉も多数いただきましたが、その言葉を糧に皆様から頂いたセンター及びコーナーの様々な課題解決と市内各種団体のさらなる発展に取り組んでいきます。また、令和5年度新たに策定を予定している『市民活動支援センター中長期運営方針（ビジョン）』にも今回の貴重なご意見を生かし、さらに市民や各種団体に寄り添ったセンター運営となるよう、職員一同努力していきます。

結びに、今回の調査にお忙しい中ご協力を賜りました多くの団体の皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。また、報告までに長いお時間を頂戴しましたこと、大変申し訳ありませんでした。

今後も、当センターの運営に忌憚のない様々なご意見、ご要望をお寄せいただきますようよろしくお願い申し上げます。

調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター